

理学療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	社会福祉概論	授業の形態	講義		使用教室	講堂
担当講師	姫野 建二 先生		一般			

教育目標	人間の尊厳を脅かす社会問題への対応として社会福祉活動がある。生活の保障・安定・向上のための制度・活動について学び、社会福祉と医療・保障との関連、医療サービス・支援の中でリハビリテーションが果たす役割について理解する。また、理学療法士・作業療法士としての基本的人権(アカウンタビリティ、インフォームド・コンセント、コンプライアンス)を基本とし、コミュニケーション能力を高め保健・医療・福祉及び患者に関わる連携を理解する。さらに、社会保障制度(医療・顔後・年金・労災保険等)の種類や歴史を理解し、その動向と施策を理解し、その生活環境(バリアフリー・ユニバーサルデザイン等)について理解する。
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション及びはじめての社会福祉の概要	福祉を学ぶ概要や社会福祉の原理のその意味と展開について学び、基本的人権について理解する。人間の多面的理解、人間の尊厳、自立・自律他理解し、権利擁護・アドボカシー、人権尊重、身体的・精神的・社会的な自立支援他を理解する。
第2回	社会福祉の歴史について	社会福祉の歴史を学ぶ意義・視点・時期区分や欧米の社会福祉の歴史的展開について学び、また、日本の社会福祉の歴史的展開について理解する。
第3回	社会福祉の思想・哲学、理論(1)	社会福祉の思想・哲学(考え方・イデオロギー・自由主義・フェミニズム等)や社会福祉の理論(定義・歴史的展開・特徴・海外の概要)について理解する。
第4回	社会福祉の思想・哲学、理論(2)	社会福祉の論点(形式的把握・公私関係論から多元的供給主体論へ・普遍主義と選別主義)や社会福祉の対象とニーズ(対象の史の変遷・対象の捉え方と考え方)について理解する。
第5回	社会問題と社会構造	現代における社会問題(貧困・失業・社会的孤立・偏見と差別・社会的排除と包摂・依存症・自殺・ヴァルネラビリティ・ニューリスク)や社会問題の構造的背景(人口構造と世帯構造・工業化から脱工業化へ・社会意識と価値観の変化)について理解する。
第6回	福祉政策の基本的な視点	福祉政策とは何か(福祉と労働政策・ニーズ)や福祉政策において重要な概念・理念(自由と平等・自立と依存・インターセクショナルリティの視点)について理解する。
第7回	福祉政策におけるニーズと資源	ニーズ(必要)とデマンド(需要)の対比、解離、行政需要と行政ニーズ、把握や種類(客観的と主観的)、公正の原理を学び、資源(リソース)、資源の性質、現金・現物給付、バウチャー・社会規制・ベーシックインカム、医療・福祉資源、開発等について理解する。
第8回	福祉政策の構成要素と過程	福祉政策の構成要素(役割と機能、福祉政策と資源配分、多元化する提供方式と政府・事業者・国民の役割)や福祉政策の過程と評価(諸課程と政策決定、方法と手段、評価、福祉計画と行財政)について理解する。
第9回	福祉政策の動向と課題	福祉政策と包括的支援の現状(21世紀の起点と基礎構造改革、社会福祉法、社会経済モデル、地域共生社会のコンセプト、多文化共生・持続可能な社会の実現)福祉政策と包括的支援の課題(公的責任と人材確保や新たな手法の活用)について理解する。
第10回	福祉政策と関連施策(1)	保健医療政策(課題と政策、社会福祉士と精神保健福祉士)や教育政策(子どもの貧困と対策、人間らしい生活の実現)、住宅政策(福祉国家の住宅対策と課題)について理解する。
第11回	福祉政策と関連施策(2)	労働政策(市場とセーフティネット、雇用保険、求職者支援制度と生活困窮者自立支援制度、生活保護と就労支援、その他)や災害政策(現状と対策と関係法律、その活用)について理解する。
第12回	福祉サービスの供給と利用の過程	福祉供給部門(社会的分業と福祉多元主義、センター間の調整・連携・協議)、福祉供給過程(福祉計画のサービス供給の枠組みと割当、再編以降の供給過程と課題)、福祉利用過程(権利と課題と権利擁護とソーシャルワーク)について理解する。
第13回	福祉政策の国際比較(1)	国際比較の視点と方法(福祉政策の3類型、境界事例、20世紀型と21世紀型)や福祉政策の動向(欧米・アメリカ・ドイツ・スウェーデン・イギリス・フランス)について理解する。
第14回	福祉政策の国際比較(2)	福祉政策の動向(東アジア・韓国・中国・その他)や福祉政策の新しい潮流と国際比較の新しい課題(所得保障からサービス保障へ、その評価)について理解する。
第15回	全体のまとめ	これからの社会福祉-出発点・到達点・展望(どこからどこまで来たのか、どこへ行くのか、理論・歴史・政策)、全体のまとめとして総括を実施する。

評価方法	授業態度(10%)、出席状況(10%)、発表参加(10%)、レポート(10%)、定期試験(60%)等から総合的に判断し、6割以上の成績を以って合格とする。
教科書	・最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 4 「社会福祉の原理と政策」中央法規
参考書	・「最新版 版厚生労働白書」発売：全国官報販売協同組合 ・「社会福祉六法 最新版」ミネルヴァ書房 ・社会保障の手引き 最新版 中央法規

作成日：令和7年4月1日

理学療法学科	1学年	前期・後期	単位数	2	時間数	30
科目名	社会性向上セミナー I		授業形態	講義	使用教室	講堂・PT,OT1
講師	石堂 優太		一般			

教育目標	① 人としてそして医療人としての意識を高め、素地を育む ② 医療人としての必要な広い社会性を身に付け、素直で正直なところを養う。 ③ 職業の素晴らしさを知り、『理学療法士・作業療法士になる』という動機付けを高める ④ 講義を通して自身の考えをまとめ、人へ伝える力を身に付ける
------	--

回	主題/内容
第1回	主題:「挨拶を通して、相手の事を思い、考える大切さを学ぶ」 講師:内部教員
第2回	
第3回	主題:「クラス内での目標共有を通して、自身の思いを伝え、チームの一員としての自覚をもつ」 講師:内部教員
第4回	
第5回	主題:「難病がくれた宝物」 外部講師:落水洋介氏(株式会社PLS代表)
第6回	
第7回	テーマ:「これからのPT・OTに求められること～リハビリの現状と今後～」 講師:姫野信吉先生(医療法人八女発心会会長兼久留米リハビリテーション学院学院長)
第8回	
第9回	主題:「理学療法士・作業療法士になるために、学院生活で実践していくこと」 講師:卒業生4名
第10回	
第11回	主題:「コーチングとは何か～理解と実践～」 講師:内部教員(Kri COACHiNGチーム)
第12回	
第13回	主題:「自身の気持ちを素直に伝える重要性を学ぶ～コーチング的視点を踏まえた実践～」 講師:内部教員(Kri COACHiNGチーム)
第14回	
第15回	総括

評価方法	出席状況、授業態度、レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする
教科書	なし
参考書	なし

理学療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	情報処理	授業の形態	講義		使用教室	PT1
担当講師	古賀 浩二 先生		一般			

教育目標	<p>OPCの簡単な操作ができること</p> <p>OMS-Wordを用いて簡単な文書を作成し印刷できること、また、Excelを用いて簡単な表が作成できること</p>
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、コンピュータハードウェアとは
第2回	コンピュータの基本	コンピュータハードウェアの種類と役割
第3回	コンピュータの基本	ソフトウェアの種類と役割
第4回	PC操作の基本	MS-Windowsによるデータ管理、プログラム管理。OSの操作方法 (OSWindowsを操作する)
第5回	文字列の入力	OSの操作方法(つづき) 文字変換を伴う日本語入力(連文節変換)、入力演習
第6回	MSWORDの基本 (概要)	MS-Wordの基本(書式設定の範囲、段落の概念とページ設定の練習) 日本語入力演習、文字列複写・移動・削除
第7回	MSWORDの基本 (ページ・段落のレイアウト)	ページ設定(おさらい) ビジネスレターの作成(段落レイアウト設定 行内配置)
第8回	MSWORDの基本 (段落レイアウト)	ビジネスレターの作成(段落レイアウト設定 ルーラ、タブ、箇条書きの利用)
第9回	MSWORDの基本 (段落レイアウト)	ビジネスレターの作成(段落レイアウト設定 つづき) 練習問題を使った書式設定のまとめ
第10回	MSWORDの基本 (図の利用)	練習問題を使った図の作成(オートシェープ)
第11回	MSWORDの基本 (表の利用)	図、及び表を含む文書の作成
第12回	MS-Excelの概要	エクセルの機能、画面説明、文書構造、入力データ
第13回	MS-Excelの基本	エクセルで利用する数式とは Excelのキーボード操作、マウス操作
第14回	MS-Excelの基本	練習問題を使った表の作成(データの入力)
第15回	MS-Excelの基本 まとめ	練習問題を使った表の書式設定 全体を通したまとめ

評価方法	出席並びに受講態度、および、授業中に課す課題の内容と提出状況、期末テストの結果60点以上を合格とする。
教科書	30時間でマスター Windows11対応 Word & Excel 2021
参考書	

作成日：令和7年4月1日

理学療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	医学英語	授業の形態	講義		使用教室	視聴覚
講師	小池 知英				一般	

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実践に必要な英文法を理解する。 ・副教材を通じて英語のリズム、発音などの基礎を学ぶ。 ・医療現場での簡単なコミュニケーションの基礎を作る。
------	--

回	主題	内容
第1回	ガイダンス	現在までの自分の英語学習を振り返り、今後の方針、目標を具体的に考える。次週からの単語テスト資料配布。副教材の解説。
第2回	英文法基本① 8品詞・文とその構成要素	授業内容：単語テスト①、主題項目の解説、副教材個別指導。 HW： 授業内容の復習、暗記。単語テスト及び副教材暗誦の準備。
第3回	英文法基本② 文型と文の種類・句と節（講義）	授業内容：単語テスト②、主題項目の解説、副教材個別指導。 HW： 授業内容の復習、暗記。単語テスト及び副教材暗誦の準備。
第4回	Lesson 1	授業内容：単語テスト③、Lesson 1解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 1復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第5回	Lesson 2	授業内容：単語テスト④、Lesson 2解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 2復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第6回	Lesson 3	授業内容：単語テスト⑤、Lesson 3解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 3復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第7回	Lesson 4	授業内容：単語テスト⑥、Lesson 4解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 4復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第8回	Lesson 5	授業内容：単語テスト⑦、Lesson 5解説、問題演習。副教材個別指導 HW：ミニテストを視野に入れたLesson1- 5復習。単語テスト及び副教
第9回	Mini Test	授業内容：単語テスト⑧、Mini Test。副教材個別指導 HW：単語テスト及び副教材暗誦の準備
第10回	Lesson 6	授業内容：単語テスト⑨、Lesson 6解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 6復習。単語テスト及び副教材暗誦準備
第11回	Lesson 7	授業内容：単語テスト⑩、Lesson 7解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 7復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第12回	Lesson 8	授業内容：単語テスト⑪、Lesson 8解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 8復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第13回	Lesson 9	授業内容：単語テスト⑫、Lesson 9解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 9復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第14回	Lesson 10	授業内容：単語テスト⑬、Lesson 10解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 10復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第15回	Lesson 11	授業内容：単語テスト⑭、Lesson 11解説、問題演習。副教材個別指導 HW：期末試験までLesson 6- 11復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備

評価方法	副教材達成度(20%)、単語テスト実績(10%)、ミニテスト(30%)と前期試験(40%)の比率で評価し、60点以上を合格とする。
教科書	PT・OTが書いたリハビリテーション英会話 / 授業時配布される演習教材(オンラインで配布)
参考書	英文法ビフォーアフター

理学療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	運動系統学 I		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	石田 恭涼	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、運動器疾患の作業療法で学んだ解剖学知識を活用し指導している。			

教育目標	理学療法士・作業療法士の基礎となる解剖・生理学を骨、関節、靭帯、筋を系統立てて運動器として理解する。①身体部位の名称を覚える。②骨・関節・筋の名称を覚える。③関節の形態より運動を理解する。④筋の走行と作用を理解する。
------	--

回	主題	内容
第1回	運動学総論	身体運動の面と軸 ①姿勢 ②面 ③軸
第2回	運動学総論	方向と位置を示す用語 ①方向 ②位置 ③上肢の動き
第3回	骨総論	骨の形状/名称 ①骨の形状 ②骨表面の用語 ③骨の構造
第4回	骨総論	骨の発生/骨の代謝(リモデリング) ①骨質 ②ハバース管 ③リモデリング
第5回	関節総論	関節の種類/分類 ①関節円板 ②運動軸による分類 ③形状の分類
第6回	筋総論	筋組織の種類/骨格筋の構造と種類 ①骨格筋 ②筋線維 ③フィラメント
第7回	筋総論	筋組織の種類/骨格筋の構造と種類 ①骨格筋 ②筋線維 ③フィラメント
第8回	総論まとめ	第1～7回までのまとめ
第9回	上肢帯周囲の構造	上肢帯 ①肩甲骨 ②鎖骨 ③上腕骨
第10回	上肢帯周囲の構造	上肢帯 ①肩関節(胸鎖関節・肩鎖関節) ②肩関節の靭帯 ③広義の肩関節
第11回	筋:体幹	体幹の筋 ①頸部の筋 ②胸部の筋 ③背部の筋
第12回	筋:肩関節周囲	肩関節周囲の筋 ①三角筋 ②回旋筋腱板 ③大円筋
第13回	上肢帯まとめ	第9～12回までのまとめ
第14回	前腕周囲の構造	自由上肢骨 ①橈骨 ②尺骨 ③肘関節
第15回	肘関節周囲の構造	肘関節周囲の靭帯/膜/筋 ①靭帯 ②骨間膜 ③筋
第16回	手関節周囲の構造	手骨 ①手根骨 ②中手骨 ③指骨
第17回	手関節周囲の構造	関節と靭帯 ①CM関節 ②MP関節 ③IP関節
第18回	前腕・肘関節・手関節まとめ	第14～17回までのまとめ
第19回	筋:前腕	前腕の筋 ①屈筋 ②伸筋 ③腱膜
第20回	筋:前腕	前腕の筋 ①屈筋 ②伸筋 ③腱膜
第21回	筋:手関節周囲	手関節周囲の筋 ①母指球筋群 ②小指球筋群 ③中手筋群
第22回	筋:手関節周囲	手関節周囲の筋 ①母指球筋群 ②小指球筋群 ③中手筋群
第23回	まとめ	まとめ

評価方法	小テスト2割・定期試験8割の筆記試験の結果、総合的に60%以上の得点を合格とします。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 『解剖学(第6版)』 野村 嶺 編 医学書院 『基礎運動学(第6版 補訂)』 中村隆一、齊藤 宏、長崎 浩 著 医歯薬出版 プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版、坂井建雄、医学書院
参考書	国試の達人 2024 運動解剖生理学編

理学療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	神経系統学 I		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	綾部雅章	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	① 神経系の各部の構成について学び説明できる ② 神経系の各部の機能について学び説明できる
------	--

回	主題	内容	keyword
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション	①脳と脊髄 ②細胞と軸索 ③白質/灰白質
第2回	神経系総論(1)	神経系の構成<中枢神経系の構成>	
第3回	神経系総論(2)	髄膜と脳室系	①髄膜 ②脳室 ③脳脊髄液
第4回	神経系総論(3)	神経総論まとめ	
第5回	中枢神経系(1)	大脳<終脳~大脳半球の表面と区分~>	①脳溝 ②脳回 ③葉
第6回	中枢神経系(2)	大脳<終脳~大脳半球の表面と区分~>	
第7回	中枢神経系(3)	大脳<終脳~大脳皮質と髄質~>	①皮質 ②髄質 ③神経連絡路
第8回	中枢神経系(4)	大脳<終脳~大脳皮質と髄質~>	
第9回	中枢神経系(5)	大脳<終脳~大脳皮質の機能局在~>	①運動 ②感覚 ③言語
第10回	中枢神経系(6)	大脳<終脳~大脳皮質の機能局在~>	
第11回	中枢神経系(7)	大脳<終脳~大脳基底核~>	①基底核 ②運動調節 ③灰白質
第12回	中枢神経系(8)	大脳<終脳~大脳辺縁系~>	
第13回	中枢神経系(9)	間脳①<視床>	①感覚 ②意識 ③灰白質
第14回	中枢神経系(10)	間脳②<視床下部>	
第15回	中枢神経系(11)	大脳まとめ	
第16回	中枢神経系(12)	大脳まとめ	
第17回	中枢神経系(13)	脳幹①<中脳/橋/延髄>	①生命維持 ②意識 ③脳神経
第18回	中枢神経系(14)	脳幹②<中脳/橋/延髄>	
第19回	中枢神経系(15)	小脳	①協調 ②平衡 ③学習
第20回	中枢神経系(16)	小脳	
第21回	中枢神経系(17)	脊髄①<脊髄の構造①>	①白質/灰白質 ②運動 ③感覚
第22回	中枢神経系(18)	脊髄②<脊髄の構造②>	
第23回	講義のまとめ	まとめ	

評価方法	小テスト1割、定期試験9割とし、総合で6割以上を合格とする
教科書	・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版、医学書院 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版、医学書院 ・病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA
参考教材	・人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版 改訂第2版、日本医事新報社 ・医学映像教育センター ビジュアルクラウド 目で見える解剖と生理 第2版 神経系 I /目で見える医学の基礎 第2版 神経系

理学療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	臓器系統学 I		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	橋山 浩介	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、リハビリ現場で遭遇しやすい臓器関連疾患を知る基礎として学ぶ。			

教育目標	内臓器の解剖学的特徴の基本を知る。 内臓器の生理学的作用の基本を知る。
------	--

回	主題	内容	キーワード
第1回	オリエンテーション	臓器系統学とは	
第2回	人体の構成と基本的生理機能	総論	組織/器官系
第3回	人体の構成と基本的生理機能		
第4回	人体の構成と基本的生理機能	負のフィードバック	ホメオスタシス
第5回	人体の構成と基本的生理機能	細胞の詳細	細胞小器官
第6回	人体の構成と基本的生理機能		DNA/細胞分裂
第7回	人体の構成と基本的生理機能		膜電位
第8回	内臓器官の基本構造	中空性器官	中空性器官/実質性器官
第9回	消化器系	総論	消化管/消化腺
第10回	消化器系	口腔・食道	口腔の構造/嚥下反射
第11回	消化器系		生理的狭窄部位
第12回	消化器系	胃・小腸・大腸	胃・小腸・大腸の構造
第13回	消化器系		排便反射
第14回	消化器系	肝臓・胆嚢・膵臓	肝臓の構造・機能/門脈
第15回	消化器系	肝臓・胆嚢・膵臓	膵臓の内分泌腺/腹膜後臓器
第16回	血液	赤血球・白血球・血小板・血漿	血液の組成
第17回	血液	赤血球・白血球・血小板・血漿	血液の機能
第18回	循環器系	循環器系:血管・心臓の解剖	血管の構造
第19回	循環器系	循環器系:血管・心臓の解剖	心臓の構造/刺激伝導系
第20回	循環器系	循環器系:血管・心臓の解剖	冠状動脈/肺循環・体循環
第21回	循環器系	循環器系:血管・心臓の解剖	機能・栄養血管/動脈系
第22回	循環器系	心電図・心臓循環	波の名称
第23回	循環器系	心電図・心臓循環	波の意味

評価方法	プレ定期試験・小テスト(2割)、定期試験(8割)にて判定し、総合6割以上を合格とする
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第6版. 医学書院. 著 野村巖 シンプル生理学 改訂第8版. 南江堂. 共著 貴邑富久子、根来英雄
参考書	理解しやすい生物 生物基礎収録版. 文英堂. 著 水野丈夫、浅島誠 標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版. 医学書院. 著 石澤光郎、富永淳

理学療法学科	1学年	前期	単位数	2単位	時間数	30時間
科目名	リハビリテーション概論		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	大坪 健一	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	リハビリテーション職種の職域や業種の特徴を知り、医療専門職の資格修得に向けての見識を学ぶ。 4年間での学習を大枠を理解する。
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介/マインドマップによる知識及び意識の確認
第2回	国家資格とは	仕事とは/理学療法士及び作業療法士になるために/国家試験概要
第3回	リハビリテーションとは	医療・保健・社会福祉とリハビリテーション (A-1/A-2/A-3)
第4回	リハビリテーションとは	医療・保健・社会福祉とリハビリテーション (A-1/A-2/A-3)
第5回	疾患と障害の関係	疾患と障害の関係-ICIDHとICF-(A-7)
第6回	医療・社会福祉と法律	生活期リハビリテーションは介護予防に役立つ(A-6) 医療・社会福祉と法律 (A-22)
第7回	医療・社会福祉と法律	医療・社会福祉と法律 (A-22) 地域リハビリテーションと地域包括ケアシステム(A-23)
第8回	医療安全ワーク①	医療安全管理について(グループワーク)
第9回	医療安全ワーク②	転倒事例のケーススタディ(グループワーク)
第10回	チーム医療	チームの要、リハビリテーション科医 (A-8)/必要不可欠なリハビリテーション看護 (A-12)/わたし達の大切な医療チーム (A-13)
第11回	廃用症候群	廃用症候群はとっても怖い(A-4)
第12回	廃用症候群	廃用症候群はとっても怖い(A-4)
第13回	老化と介護予防	老化と介護予防(B-12)
第14回	車いす関連	様々な種類の車椅子 (A-20)
第15回	講義のまとめ	前期講義のまとめ

評価方法	受講状況及び定期試験の成績より、100点満点で60点以上を合格とする。
教科書	「リハビリテーション総論」改定第4版 椿原彰夫編 診断と治療社
参考教材	動画教材 ビジュランクラウド(医学映像教育センター)

理学療法学科	1学年	前期	単位数	1	時間数	30
科目名	作業療法士論		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	津留寄衣里子	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を活かし講義を実施する。			

教育目標	①リハビリテーションにおける理学療法・作業療法の位置付けを理解する。 ②作業療法における作業の治療的役割を理解する。 ③作業療法の専門分野、作業療法の視点を理解する。 ④他職種の仕事内容を知り、医療や福祉の中でのチームアプローチの必要性を理解する。
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 導入	オリエンテーション・導入(シラバスの説明、意味のある活動とは) 文献「 Pastaを作る」を読んで(ディスカッションを中心に作業を考える)
第2回	リハビリテーションとは	リハビリテーションを知る ～職種について考える・理学療法とは?～
第3回	作業療法の原理	作業療法を知る ～作業療法とは?・人と作業の関わり～
第4回	作業療法の原理	作業療法を知る ～作業療法の歴史について～
第5回	作業療法の原理	作業療法を知る ～その人らしい生活を実現するために(ICF・生活行為向上マネジメント)～
第6回	分野別作業療法	各分野の作業療法①
第7回	分野別作業療法	各分野の作業療法②
第8回	分野別作業療法	各分野の作業療法③
第9回	分野別作業療法	各分野の作業療法④
第10回	分野別作業療法	各分野の作業療法④
第11回	分野別作業療法	各分野の作業療法⑤
第12回	分野別作業療法	各分野の作業療法⑥
第13回	作業の実践	作業療法の実践 ～レクリエーション体験とその治療的意義について考える～
第14回	作業の実践	作業療法の実践 ～レクリエーション体験とその治療的意義について考える～
第15回	総合理解・まとめ	職種連携を考える ～症例を通してそれぞれの視点で考える～ まとめ

評価方法	授業態度・出席状況・課題提出等をもって総合的に判断し、60点以上で履修を認定する
教科書	『リハビリテーション総論 改訂第3版』 椿原 彰夫
参考書	『標準作業療法学 作業療法概論 第3版』

理学療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	理学療法概論 I		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	凌部 雅章／丸山 寿美恵		実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。		

教育目標	理学療法士の意義・役割を知り、職務内容を理解する。また、理学療法士になるために必要な努力は何かを知り、具体的に取組んでいく道筋を作る。理学療法士に必要な基本的事項を学ぶ。今後の学習や実習及び医療従事者になるための動機付けを行う。
------	--

回	主題	内容
第1回	理学療法とは①	オリエンテーション／理学療法士の業務・役割の全体像／医療人としての心構え
第2回	理学療法とは②	理学療法と倫理・哲学①
第3回	理学療法とは③	理学療法と倫理・哲学②(ディスカッション)
第4回	理学療法の歴史	理学療法とリハビリテーションの歴史
第5回	理学療法士及び作業療法士法	PT・OT法における理学療法
第6回	理学療法士及び作業療法士法	PT・OT法における理学療法
第7回	理学療法士に求められる要素①	求められる3つの領域
第8回	理学療法士に求められる要素②	認知領域／情意領域／精神運動領域①
第9回	理学療法士に求められる要素③	認知領域／情意領域／精神運動領域②
第10回	理学療法士に求められる要素④	医療人として必要な資質とは(ディスカッション)
第11回	理学療法の基盤	ICF／根拠(evidence)
第12回	理学療法の基盤	ICF／根拠(evidence)
第13回	理学療法の職域①	理学療法士の役割とその職域(医療／介護領域)
第14回	理学療法の職域②	理学療法士の役割とその職域(急性期／回復期等の病期)
第15回	まとめ	前期講義のまとめ(ディスカッション:自身が目指すPT像)

評価方法	レポート3割、定期試験7割とし、総合で6割以上を合格とする。
教科書	理学療法概論 第7版補訂 医歯薬出版株式会社
参考書	動画教材 ビジュランクラウド(医学映像教育センター)

理学療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	理学療法概論演習		授業形態	演習・講義	使用教室	PT1/治療室2
講師	石堂優太／徳田一貫	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、実践を踏まえながら理解を促していく			

教育目標	1.理学療法士を目指す学生として必要な能力を理解する 2.骨や筋を体表から触診できる 3.身体動作・日常生活動作について理解できる
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	理学療法士の役割、身だしなみ、リスク管理、理学療法士に必要な能力
第2回	バイオメカニクス	バイオメカニクスの視点から動作を診る
第3回	バイオメカニクス	バイオメカニクスの視点から動作を診る
第4回	バイオメカニクス	バイオメカニクスの視点から動作を診る
第5回	触診	骨・筋の触診(総論) 触診方法や全体像の把握、方向について
第6回	触診	骨の解剖学的特徴の理解、骨の触診(上肢 肩甲骨・鎖骨)
第7回	触診	骨の解剖学的特徴の理解、骨の触診(上肢 上腕骨・橈骨・尺骨)
第8回	触診	骨の解剖学的特徴の理解、骨の触診(上肢 手根骨・指骨)
第9回	触診	骨の解剖学的特徴の理解、骨の触診(下肢 骨盤)
第10回	触診	骨の解剖学的特徴の理解、骨の触診(下肢 大腿骨・膝関節周囲)
第11回	触診	骨の解剖学的特徴の理解、骨の触診(下肢 足関節・足部周囲)
第12回	触診	骨の解剖学的特徴の理解、骨の触診(体幹 胸郭に関連する組織)
第13回	触診	骨の解剖学的特徴の理解、骨の触診(体幹 脊柱に関連する組織)
第14回	触診	姿勢の観察、骨を触るための指標(ランドマーク)の確認
第15回	まとめ	1～14回のまとめを実施

評価方法	実技試験6割、定期試験4割とし、総合で6割以上を合格とする。 定期試験については60点以上を合格とする。実技試験が未受験の場合は不合格とする。 実技試験・定期試験どちらか一方が6割未満の場合は両者再試験を実施する。
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 (メジカルビュー社) 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 (メジカルビュー社) 理学療法評価学 改訂第6版 (金原出版)
参考書	基礎運動学 第7版 (医歯薬出版) プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版 (医学書院)

理学療法学科	1学年	通期	単位数	1	時間数	15
科目名	体験学習		授業形態	演習	使用教室	PT1/姫野病院
講師	石堂 優太	実務経験有	理学療法士として医療施設での臨床経験を活かし、現場のイメージを学生と共有し、体験学習をより充実させる			

教育目標	<p>1.施設の規則や時間の厳守、適切な言葉遣いができるなど社会人としての最低限のルールを守ることができる。</p> <p>2.理学療法士・作業療法士の1日の仕事の流れを知ることが出来る。</p> <p>3.リハビリテーション分野における仕事のやりがいと魅力を述べる事が出来る。</p> <p>4.デイリーノートに実習で経験したこと、学習したこと記録し、報告することが出来る。</p>
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	体験学習の位置づけと実習要綱の説明
第2回	体験学習準備	臨床現場見学における行動計画
第3回	施設における体験学習	理学療法士・作業療法士の1日の仕事の流れを知る。 施設の規則や時間の厳守、適切な言葉遣いができるなどを学ぶ 様々なリハビリテーション場面を見学して疑問を持ち自己学習へと繋げる
第4回	施設における体験学習	理学療法士・作業療法士の1日の仕事の流れを知る。 施設の規則や時間の厳守、適切な言葉遣いができるなどを学ぶ 様々なリハビリテーション場面を見学して疑問を持ち自己学習へと繋げる
第5回	施設における体験学習	理学療法士・作業療法士の1日の仕事の流れを知る。 施設の規則や時間の厳守、適切な言葉遣いができるなどを学ぶ 様々なリハビリテーション場面を見学して疑問を持ち自己学習へと繋げる
第6回	施設における体験学習	理学療法士・作業療法士の1日の仕事の流れを知る。 施設の規則や時間の厳守、適切な言葉遣いができるなどを学ぶ 様々なリハビリテーション場面を見学して疑問を持ち自己学習へと繋げる
第7回	施設における体験学習	理学療法士・作業療法士の1日の仕事の流れを知る。 施設の規則や時間の厳守、適切な言葉遣いができるなどを学ぶ 様々なリハビリテーション場面を見学して疑問を持ち自己学習へと繋げる
第8回	施設における体験学習	理学療法士・作業療法士の1日の仕事の流れを知る。 施設の規則や時間の厳守、適切な言葉遣いができるなどを学ぶ 様々なリハビリテーション場面を見学して疑問を持ち自己学習へと繋げる
第6回	施設における体験学習	デイリーノートに学習したことを記録し、報告する
第7回	オリエンテーション	実習終了後の提出物・書類の確認、お礼状の作成、グループ発表準備
第8回	報告会	体験してきた内容をグループでまとめ、報告する

評価方法	出席・実習成績・デイリーノート・報告会にて総合的に評価し、100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	なし
参考書	なし

作成日：令和7年4月1日

理学療法学科	1学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	心理学		授業形態	講義	使用教室	OT1
講師	石川貴史	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を通して人間の心をとらえる基礎となる考え方や視点について伝える。			

教育目標	国家試験に必要なとなる知識の習得を図る。 心理学的基礎知識を基に2年次の精神医学に繋がる知識、考え方を身に付ける。
------	--

回	主題	内容	キーワード
第1回	精神分析①	精神分析における理論	無意識・自我・超自我
第2回	精神分析②	精神分析における理論	自由連想法・個人的無意識・個人心理学
第3回	防衛機制①	防衛機制について	防衛機制・フロイト
第4回	防衛機制②	防衛機制について、障害受容について	転移・障害受容
第5回	心理的問題①	乳幼児期、児童期における心理的問題	エリクソン・基本的信頼感・口唇期
第6回	心理的問題②	思春期、青年期における心理的問題	モラトリアム・エディプスコンプレックス・アイデンティティ
第7回	心理的問題③	中年期、老年期における心理的問題	世代性・創造性・統合
第8回	学習・記憶	心理学習と記憶	ピアジェ・ワーキングメモリ・意味記憶
第9回	心理療法、理論モデル①	臨床心理学の介入方法①	精神分析療法
第10回	心理療法、理論モデル②	臨床心理学の介入方法②	学習理論
第11回	心理療法、理論モデル③	臨床心理学の介入方法③	集団精神療法
第12回	心理検査①	人格検査	質問紙法・投影法・作業検査法
第13回	心理検査②	発達検査、知能検査	ウェクスラー・ビネー・コース立方体
第14回	心理検査③	神経心理学的検査	ベントン・レイ・TMT
第15回	まとめ	まとめ	

評価方法	定期試験で60%以上を合格とする。また、小テスト20%、定期試験80%で総合点を算出する。
教科書	はじめての講義 リハビリテーションのための臨床心理学
参考書	作業療法学 ゴールドマスターテキスト 作業学 第3版 リハベーシック 心理学・臨床心理学

理学療法学科	1学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	運動系統学Ⅱ		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	石堂 優太	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、運動器疾患の理学療法で学んだ解剖学知識を活用し指導している。			

教育目標	理学療法士・作業療法士の基礎となる解剖・生理学を骨、関節、靭帯、筋を系統立てて運動器として理解する。①身体部位の名称を覚える。②骨・関節・筋の名称を覚える。③関節の形態より運動を理解する。④筋の大きな位置と作用を理解する。
------	---

回	主題	内容
第1回	筋の総論・テコについて	骨、関節、筋について(key word:主動作筋、拮抗筋、筋張力、テコ)
第2回	骨:下肢帯	寛骨、仙骨(key word:寛骨、仙骨、骨盤の性差)
第3回	関節:下肢帯	恥骨結合・仙腸関節、骨盤(key word:骨盤、仙腸関節の構造、仙腸関節の運動)
第4回	骨:自由下肢帯	大腿骨/膝蓋骨(key word:頸体角、前捻角、膝蓋骨関節面)
第5回	関節:自由下肢骨	股関節・靭帯・運動 (key word:股関節周囲の靭帯、ヤコビー線、ローザーネラトン線、スカルパ二角)
第6回	筋:下肢	骨盤・股関節に付着する単関節筋(key word:筋の名称、位置関係、作用)
第7回	筋:下肢	骨盤・股関節に付着する単関節筋(key word:筋の名称、位置関係、作用)
第8回	下肢の運動	まとめ(key word:寛骨、大腿骨、骨盤-股関節の単関節筋)
第9回	骨:自由下肢帯	脛骨・腓骨(key word:前顆間区、後顆間区、下腿骨間膜)
第10回	関節:自由下肢骨	膝関節・靭帯・半月板・運動/荷重軸・FTA (key word:関節半月、ACL、PCL、FTA)
第11回	筋:下肢	股関節・膝関節に作用する二関節筋(key word:筋の名称、位置関係、作用)
第12回	筋:下肢	股関節・膝関節に作用する二関節筋(key word:筋の名称、位置関係、作用)
第13回	骨:自由下肢帯	足部の骨(key word:足根骨・中足骨・指節骨)
第14回	関節:自由下肢骨	脛骨・腓骨の連結/距腿関節/足部の関節 (key word:距腿関節の運動、内がえし、外がえし、足弓)
第15回	筋:下肢	足関節の筋、足の内在筋(key word:筋の名称、位置関係、作用)
第16回	下肢の運動	まとめ(key word:脛骨、腓骨、足根骨、下腿~足部への付着筋)
第17回	骨:脊柱・胸郭	脊柱・胸郭の解剖(key word:頸椎・胸椎・腰椎)
第18回	骨:脊柱・胸郭	胸骨・肋骨(key word:胸骨、肋骨、胸骨下角、ルイ角)
第19回	関節:脊柱・胸郭	椎体・椎間関節/肋椎関節/胸肋関節/靭帯 (key word:椎体、椎骨に付着する靭帯、脊柱の関節)
第20回	関節:脊柱・胸郭	椎体・椎間関節/肋椎関節/胸肋関節/靭帯 (key word:椎体、椎骨に付着する靭帯、脊柱の関節)
第21回	筋:体幹	体幹の筋(腹筋群・背筋群)(key word:筋の名称、位置関係、作用)
第22回	骨・骨頭	頭蓋骨/顎関節(頭蓋の縫合、顎関節の運動、関節円盤)
第23回	筋:頸部・顔面	頸部の筋/表情筋、咀嚼筋/まとめ (key word:筋の名称、位置関係、開口作用、閉口作用)

評価方法	2/3以上の出席を前提とする。 小テスト2割・前期試験8割の筆記試験の結果、総合的に6割以上の得点を合格とする。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 『解剖学(第6版)』 野村 巖 編 医学書院 『基礎運動学(第7版 補訂)』 中村隆一、齊藤 宏、長崎 浩 著 医歯薬出版 プロメテウス解剖学コアアトラス 第2版、坂井建雄、医学書院
参考書	なし

理学療法学科	1学年	後期	単位数	2単位	時間数	45時間
科目名	神経系統学Ⅱ		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	久保与広	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その実務経験を授業に反映させている			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・神経系の各部の構成について学び説明できる ・神経系の各部の機能について学び説明できる ・神経系の構造と機能を学び、疾患や理学療法、作業療法との関連を理解する
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 中枢神経系	オリエンテーション 脊髄の復習 (脊髄の構造・神経根・神経細胞)
第2回	中枢神経系	神経路<上行性神経路①> (温痛覚・触覚・深部感覚)
第3回		神経路<上行性神経路②> (外側脊髄視床路・前脊髄視床路・後索路)
第4回		神経路<上行性神経路③> (後脊髄小脳路・三叉神経視床路・三叉神経脊髄路)
第5回		神経路<下行性神経路①> (錐体路・錐体外路・皮質脊髄路)
第6回		神経路<下行性神経路②> (外側皮質脊髄路・前皮質脊髄路・皮質核路)
第7回		神経路<下行性神経路③> (赤核脊髄路・視蓋脊髄路・前庭脊髄路・網様体脊髄路)
第8回		末梢神経系
第9回	脊髄神経① (脊髄神経・混合神経・ベル・マジヤンディーの法則)	
第10回	脊髄神経②<脊髄神経> (脊髄神経・デルマトーム・末梢神経障害)	
第11回	脊髄神経③<頸神経、頸神経叢> (頸神経・頸神経叢・頸神経ワナ)	
第12回	脊髄神経④<腕神経叢> (腕神経叢・神経幹・神経束)	
第13回	脊髄神経④<腕神経叢の続き> (腕神経叢の枝・上肢筋支配神経・末梢神経障害)	
第14回	脊髄神経⑤<脊髄神経前半の復習>	
第15回	脊髄神経⑥<胸神経> (胸神経・胸神経走行・肋間神経)	
第16回	脊髄神経⑦<腰神経、腰神経叢> (腰神経・腰神経叢・腰神経走行)	
第17回	脊髄神経⑦<腰神経、腰神経叢の続き> (大腿神経・閉鎖神経・支配神経)	
第18回	脊髄神経⑧<仙骨神経、仙骨神経叢> (仙骨神経・仙骨神経叢・仙骨神経走行)	
第19回	脊髄神経⑧<仙骨神経、仙骨神経叢の続き> (坐骨神経・脛骨神経・総腓骨神経)	
第20回	脊髄神経⑨<仙骨神経叢、尾骨神経叢> (尾骨神経叢・陰部神経・括約筋)	
第21回	脊髄神経⑩<脊髄神経後半の復習>	
第22回	後期のまとめ	まとめ
第23回		まとめ②

評価方法	・小テスト(1割)、定期試験(9割)にて総合的に判定し、60点以上を合格とする
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版、医学書院 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版、医学書院 ・病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA
参考書	・解剖学コア アトラス プロメテウス 第4版

理学療法学科	1学年	後期	単位数	2単位	時間数	45時間
科目名	臓器系統学Ⅱ		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	大坪 健一	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を授業に反映している。			

教育目標	①内臓器の解剖学的特徴や基本的な生理学的作用を理解し、2年次の生理学的作用の理解に繋げる。 ②各臓器の特徴や作用を学ぶことで疾患との繋がりを考える機会となる。 ③理学療法士・作業療法士の国家資格に必要な知識を習得する。
------	---

回	主題	内容／キーワード
第1回	循環器	全身の血管系(動脈)/①上肢(鎖骨下・腋窩・上腕・橈骨尺骨動脈) ②体表触診可能な血管の触診部位
第2回	循環器	全身の血管系(動脈)/①下肢(大腿・膝窩・前後脛骨動脈、足背動脈) ②体表触診可能な血管の触診部位
第3回	循環器	第1回小テスト(第1～2回の範囲) 全身の血管系(静脈)/①皮静脈 ②特殊循環系(奇静脈系・門脈系)
第4回	呼吸器	呼吸とは(なぜヒトは呼吸をするのか)/①内呼吸・外呼吸 呼吸器系とは(構成要素)/②上気道～下気道・肺胞(全体像)
第5回	呼吸器	上気道の解剖/①鼻腔・咽頭 ②喉頭(軟骨組織)
第6回	呼吸器	下気道の解剖/①気管・気管支・その他 ②肺胞
第7回	呼吸器	第2回小テスト(第4～6回の範囲) 肺の解剖/①肺葉・肺門・機能血管と栄養血管 ②胸膜・縦隔
第8回	呼吸器	胸郭とは(構成要素)/①骨(胸椎・肋骨・脊柱) ②筋(横隔膜・内外肋間筋)
第9回	呼吸器	呼吸運動/①吸息と呼息(呼吸運動のしくみ) ②吸息・呼息時の胸郭の動きとしくみ
第10回	呼吸器	呼吸運動/①自然呼吸に関する呼吸筋・強制呼吸に関する呼吸筋 ②肺機能検査(スパイロメーター)
第11回	呼吸器	第3回小テスト(第7～10回の範囲) 呼吸運動/①努力肺活量・1秒率について ②閉塞性・拘束性換気障害とは(①のキーワードに沿った概要のみ)
第12回	泌尿器	排泄とは(ヒトはなぜ排泄が必要か)→導入 泌尿器系(構成要素と機能)/①腎臓・尿管・膀胱・尿道(全体像) ②泌尿器系の大まかな機能
第13回	泌尿器	腎臓の解剖/①心臓と腎臓の血液循環の流れ(各血管系に触れながら) ②腎臓実質の解剖(腎臓の断面図を中心に理解)
第14回	泌尿器	腎臓の解剖/①ネフロン(腎小体)の解剖 機能/②ネフロン(腎小体)の基礎生理(2年次に繋がる基礎部分のみ)
第15回	泌尿器	腎臓の解剖/①ネフロン(腎小体)の解剖 機能/②ネフロン(腎小体)の基礎生理(2年次に繋がる基礎部分のみ)
第16回	泌尿器	腎臓の解剖/①ネフロン(尿細管)の解剖 機能/②ネフロン(尿細管)の基礎生理(2年次に繋がる基礎部分のみ)
第17回	泌尿器	腎臓の解剖/①ネフロン(尿細管)の解剖 機能/②ネフロン(尿細管)の基礎生理(2年次に繋がる基礎部分のみ)
第18回	泌尿器	第4回小テスト(第12～17回の範囲) 膀胱の機能/排尿・蓄尿(支配筋・支配神経、排尿と蓄尿のしくみ)
第19回	栄養と代謝	代謝とは/①同化と異化 ②体内のエネルギー源(ATP) ③代謝量(基礎代謝・特異動的作用・身体活動) ※概要のみ
第20回	体温・体温調節	体温とは/①体温(体温の恒常性・核芯温と皮膚温) ②体温の生理的変化(概日リズム・年齢・性周期)
第21回	体温・体温調節	体温調節/①体温調節中枢(視床下部の機能とセットポイント) ②熱産生(熱産生のしくみ:代謝・ふるえ・特異動的作用)
第22回	体温・体温調節	体温調節/①熱拡散(熱拡散のしくみ) (1)放射・伝導と対流 (2)蒸発(呼吸・発汗)
第23回	体温・体温調節	体温調節/①熱拡散(熱拡散を調節する生理的しくみ) (1)皮膚血管 (2)発汗(汗腺も含めて説明)

評価方法	定期試験(9割)、小テスト(1割)にて総合的に判定する。 ただし、定期試験については60点以上を合格とする。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版. 医学書院. 著 野村嶺 シンプル生理学 改訂第8版. 南江堂. 共著 貴邑富久子、根来英雄
参考書	国試の達人(運動解剖生理学編) 病気がみえる<Vol.2> 第5版 循環器. メディックメディア. 医療情報科研究所 病気がみえる<Vol.4> 第3版 呼吸器. メディックメディア. 医療情報科研究所

理学療法学科	1学年	後期	単位数	2	時間数	30時間
科目名	病理学		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	大坪健一	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	総論においては、疾病の原因とその成り立ちを理解する。 生命維持及び活動エネルギーに必須の栄養学の必要性を理解する。
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション/病因論	病理学とは
第2回	退行性病変	変性・萎縮・壊死
第3回	進行性病変	肥大・過形成・化生・異形成・再生
第4回	代謝異常	糖質代謝異常、脂質代謝異常
第5回	循環障害	小テスト①/局所の循環障害
第6回	循環障害	全身の循環障害
第7回	免疫	自然免疫・獲得免疫
第8回	免疫	アレルギーと移植
第9回	炎症・感染症	小テスト②/急性炎症と慢性炎症
第10回	炎症・感染症	感染症
第11回	腫瘍	良性腫瘍・悪性腫瘍
第12回	老化	小テスト③/加齢による生理的老化
第13回	循環器	虚血性心疾患/動脈硬化他
第14回	呼吸器	閉塞性/拘束性肺疾患他
第15回	講義のまとめ	小テスト④/講義のまとめ

評価方法	受講状況、定期試験(75%)と小テスト(25%)の結果を総合的に判定し60点以上を合格とする。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 病理学 第5版(監修)横井豊治 医学書院
参考書	(動画教材)VISUAL-EARN

理学療法学科	1学年	後期	単位数	2単位	時間数	30時間
科目名	リハビリテーション医学		授業形態	講義	使用教室	OT1
講師	高山 翔平	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている			

教育目標	リハビリテーションに関する疾患や病態、それらに対応する実際の概要を理解する。 4年間での学習の大枠を理解する
------	---

回	主題	内容
第1回	理学療法・作業療法の進め方	理学・作業療法の実際
第2回	機能評価と能力評価	機能評価なしに機能訓練を始められない (A-14) 機能障害にはどんな評価方法があるの？ (A-15)
第3回	機能評価と能力評価	能力低下の評価方法を習得しよう (A-16)
第4回	歩行	正常歩行について
第5回	関節可動域と筋力・筋力増強	関節拘縮と関節可動域訓練/筋力低下と筋力増強訓練
第6回	運動麻痺	運動麻痺とニューロリハビリテーション
第7回	高次脳機能障害	失語症と言語聴覚療法/失認と失行
第8回	脳血管障害①	脳血管障害の分類と病態
第9回	脳血管障害②	リハビリテーションの目的
第10回	摂食嚥下障害	摂食嚥下障害
第11回	神経筋疾患①	パーキンソン症候群/脊髄小脳変性
第12回	神経筋疾患②	神経・筋疾患
第13回	脊髄損傷	脊髄損傷
第14回	運動器疾患	運動器疾患/関節リウマチ
第15回	講義のまとめ	後期講義のまとめ

評価方法	受講状況及び定期試験の結果で60点以上を合格とする。
教科書	「リハビリテーション総論」改定第4版 椿原彰夫編 診断と治療社
参考書	動画教材 ビジュランクラウド(医学映像教育センター)

理学療法学科	1学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	理学療法概論Ⅱ		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	綾部 雅章	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	理学療法士の意義・役割を知り、職務内容を理解する。また、理学療法士になるために必要な努力は何かを知り、具体的に取り組んでいく道筋を作る。理学療法士に必要な基本的事項を学ぶ。今後の学習や実習及び医療従事者になるための動機付けを行う。
------	---

回	主題	内容
第1回	理学療法評価(概論)	全体像の把握／評価手順
第2回	実習報告会	理学療法士の仕事・分野について学ぶ
第3回	理学療法評価①	各検査測定項目
第4回	理学療法評価②	各検査測定項目
第5回	理学療法の対象と治療手段①	身体運動機能と構成要素
第6回	理学療法の対象と治療手段②	各運動療法
第7回	理学療法の対象と治療手段③	各運動療法
第8回	理学療法の対象と治療手段④	各運動療法
第9回	理学療法の対象と治療手段⑤	運動学習について
第10回	まとめ	
第11回	理学療法と診療報酬①	医療保険および介護保険
第12回	理学療法と診療報酬②	医療保険および介護保険
第13回	理学療法と管理①	医療上の管理
第14回	理学療法と管理②	医療事故の防止
第15回	まとめ	

評価方法	受講状況及び定期試験の結果で60点以上を合格とする。
教科書	理学療法概論 第7版補訂 医歯薬出版株式会社
参考書	PT・OTビジュアルテキスト 理学療法概論 第1版 羊土社 理学療法概論テキスト 改訂第3版 南江堂

理学療法学科	1学年	後期	単位数	1	時間数	30
科目名	理学療法評価学 I		授業形態	演習／講義	使用教室	治療室1／PT1
講師	橋山浩介	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を授業に反映している。			

教育目標	1.理学療法士を目指す学生として評価の重要性を学ぶ。 2.身体を構成する骨を体表から触診することができる。 3.身体動作・日常生活活動について理解することができる。 4.基本的な評価について意義目的を知り、実技を習得することができる。
------	--

回	主題	内容
第1回	理学療法における評価の位置づけ	理学療法評価とは(意義、目的、評価の過程)
第2回	理学療法における評価の位置づけ	理学療法評価とは(評価の対象、評価方法の種類、時期と目的)
第3回	理学療法における評価の位置づけ	一般的評価事項(情報収集:問診・観察・検査・測定)
第4回	バイタル測定	血圧とはリスク管理の理解 (評価実施上の留意事項、評価環境、評価器具)
第5回	バイタル測定	測定方法
第6回	形態測定	意義と目的、種類、注意事項 四肢長
第7回	形態測定	四肢周径
第8回	関節可動域測定	定義・目的／身体の基本的肢位と基本的運動方向 肩関節
第9回	関節可動域測定	肩・肘関節
第10回	関節可動域測定	前腕・手関節
第11回	関節可動域測定	股関節
第12回	関節可動域測定	股関節・膝関節
第13回	関節可動域測定	足関節および足部
第14回	関節可動域測定	体幹・頸部
第15回	まとめ	まとめ

評価方法	小テスト(1割)、実技試験(3割)、定期試験(6割)とし、総合で6割以上を合格とする。 ただし、実技試験・筆記試験どちらか一方が6割未満の場合、両者再試験とする。 実技試験・定期試験が未受験の場合は不合格とする。
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診技術-上肢- MEDICAL VIEW 運動療法のための機能解剖学的触診技術-下肢・体幹- MEDICAL VIEW 理学療法評価学 金原出版株式会社
参考書	基礎運動学 第6版 / プロメテウス解剖学コアアトラス

理学療法学科	1学年	後期	単位数	1	時間数	30
科目名	臨床技能演習 I		授業形態	演習／講義	使用教室	治療室1
講師	丸山 寿美恵	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を講義に反映させている。			

教育目標	①理学療法概論演習で学んだ車椅子駆動介助、移乗介助方法について確認をする。 ②理学療法評価学で学んだ検査・測定を確認する。 ③臨床場面での介助や検査・測定のすすめ方、注意点を習得する。
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 客観的臨床能力試験とは	オリエンテーション 客観的臨床能力試験とは
第2回	技能;レベル1(1)	標準予防策(スタンダードプレコーション) 「手指衛生、手袋・ガウン・ゴーグル・マスクの着脱」 リスク管理
第3回	技能;レベル1(2)	コミュニケーション技法
第4回	技能;レベル1(3)	車椅子の駆動介助
第5回	技能;レベル1(4)	車椅子の駆動介助
第6回	技能;レベル1(5)	移乗介助
第7回	技能;レベル1(6)	移乗介助
第8回	技能;レベル2(1)	脈拍・血圧測定
第9回	技能;レベル2(2)	形態測定
第10回	技能;レベル2(3)	形態測定
第11回	技能;レベル2(4)	関節可動域測定(上肢)
第12回	技能;レベル2(5)	関節可動域測定(上肢)
第13回	技能;レベル2(6)	関節可動域測定(下肢)
第14回	技能;レベル2(7)	関節可動域測定(下肢)
第15回	まとめ	

評価方法	実技試験6割、定期試験4割とし、総合で6割以上を合格とする。 実技試験・定期試験が未受験の場合は不合格とする。 実技試験・定期試験どちらか一方が6割未満の場合は両者再試験を実施する。
教科書	・PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版、金原出版株式会社
参考書	

理学療法学科	1学年	後期	単位数	1	時間数	30
科目名	運動療法 I		授業形態	講義／演習	使用教室	PT1／治療室1
講師	丸山 寿美恵	実務経験有	理学療法士として医療施設での臨床経験があり、その経験を活かし運動療法の基礎を伝える。			

教育目標	理学療法の基本となる運動療法の基礎を総論的に学習し、治療の理論や概念を理解する。運動療法の意義と目的を明確にし、リハビリテーション医学の中での位置づけを理解する。
------	---

回	主題	内容
第1回	第1章 総論	オリエンテーション／運動・運動療法の定義と特徴 ：目的、対象、分類
第2回	第1章 総論	運動療法の適応と禁忌、一般的な手順 ：適応、禁忌、トレーニングの原理・原則
第3回	第3章 関節可動性と運動療法	関節の可動性/関節包内運動 ：制限因子、関節包内運動、凹凸の法則
第4回	第3章 関節可動性と運動療法	関節包内運動【実技】 ：関節モビライゼーション(肩甲胸郭関節、肩関節、膝関節、膝蓋骨)
第5回	第3章 関節可動性と運動療法	ストレッチング【実技】 ：I b抑制、腸腰筋、ハムストリングス
第6回	第3章 関節可動性と運動療法	拘縮のメカニズム/拘縮は改善できるのか ：拘縮の機序、起こりやすい拘縮、禁忌・リスクなど
第7回	第2章 筋機能と運動療法	筋の機能について ：絶対筋力、筋の長さ-張力曲線、筋の収縮速度と張力の関係
第8回	第2章 筋機能と運動療法	関節運動と関連させた筋収縮様式の分類 ：等張性収縮、等運動性収縮、等尺性収縮
第9回	第2章 筋機能と運動療法	関節運動と関連させた筋収縮様式の分類/姿勢・動作における筋の役割 ：開放運動連鎖、閉鎖運動連鎖、筋の3大機能
第10回	第2章 筋機能と運動療法	筋力増強の理論 ：筋力増強に影響する要因、生理学的効果、利点と欠点、運動の特異性
第11回	第2章 筋機能と運動療法	筋力・筋持久力低下に対する運動療法【実技】 ：筋力増大の原則、条件、殿筋群、大腿四頭筋
第12回	全身持久力(体力)	体力とは、エネルギー代謝、呼吸・循環反応
第13回	全身持久力(体力)	運動処方
第14回	第4章 バランス機能と運動療法	姿勢・動作におけるバランス機能 ：動的バランス・静的バランス、姿勢制御
第15回	第4章 バランス機能と運動療法	バランス機能障害に対する運動療法【実技】

評価方法	小テスト1割、実技試験2割、定期試験7割とし、総合で6割以上を合格とする。 実技試験が未受験の場合は不合格とし、実技試験が6割未満の場合は実技試験の再試験を実施する。
教科書	・Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学 (メジカルビュー社)
参考書	・運動療法学 改訂第2版 (金原出版) ・IDストレッチング 第2版 (三輪書店)

理学療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	運動系統学Ⅲ		授業形態	講義	使用教室	PT2
講師	岡 大樹	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、運動器疾患のリハビリテーションで学んだ解剖学知識を活用し指導している。			

教育目標	① 上肢および体幹に関し、1年次に学習した運動器を復習しながら各関節で起こる運動を学び説明できる ② 運動学を学び、疾患や作業療法との関連を理解する ③ 筋収縮の基礎的性質を理解する
------	---

回	主題	内容	キーワード
第1回	オリエンテーション 総論(1)	オリエンテーション 復習：身体運動の面と軸、関節運動	復習(面と軸) 胸鎖関節 肩鎖関節
第2回	肩関節(1)	肩関節複合体、胸鎖関節と靭帯・運動、肩鎖関節と靭帯・運動	肩鎖関節 肩鎖関節
第3回	肩関節(2)	肩甲上腕関節と靭帯、第2肩関節、肩甲胸郭関節	肩甲上腕関節 肩甲骨胸郭関節
第4回	肩関節(3)	上肢帯と肩関節での上腕の動き(肩甲上腕リズム、ゼロポジション)	肩甲上腕リズム
第5回	肩関節(4)	上肢帯と肩関節の運動に関わる筋(体表解剖、断層解剖も含む)	筋(上肢帯) 体表解剖
第6回	肩関節(5)	上肢帯と肩関節の運動に関わる筋(上腕二頭筋長頭腱、回旋筋腱板、腱板疎部)	回旋筋腱板
第7回	肘関節(1)	肘関節および前腕の運動に関わる関節	肘関節(3関節) 肘関節の運動
第8回	肘関節(2)	肘関節・前腕の運動	前腕の運動
第9回	前腕・手関節(1)	橈骨と尺骨の連結 手関節の連結と運動	前腕骨間膜 遠位橈尺関節
第10回	手関節(2)	手関節と運動(屈筋群、伸筋群)	手関節の運動
第11回	前半まとめ	第1～10回まとめ	(前半まとめ) 手外在筋 指背腱膜
第12回	手(1)	手指の運動に関与する筋(手外在筋)	手外在筋 指背腱膜
第13回	手(2)	手指の関節(CM関節)、母指の運動に関与する筋(手外在筋)、屈筋支帯	CM関節 屈筋支帯
第14回	手(3)	手指の関節(MP関節、IP関節)、手内在筋	手内在筋
第15回	手(4)	母指、小指の運動に関与する筋(母指球筋、小指球筋)	母指・小指球筋
第16回	手(5)	上肢(手)を支配する末梢神経(手内在筋に関与する神経)	正中・尺骨神経 橈骨神経
第17回	手(6)	手のアーチ、手の把持動作パターン、手の変形	手のアーチ 脊柱の靭帯
第18回	体幹(1)	体幹の運動 脊柱・頸椎の運動	頸部の運動
第19回	体幹(2)	胸椎・胸郭の運動	椎間関節 胸郭
第20回	体幹(3)	胸椎・胸郭の運動、腰椎の運動	呼吸筋
第21回	姿勢	姿勢の分類、重心と重心線	理想的アライメント
第22回	頭部	顎関節、咀嚼運動とその筋、顔面運動とその筋	咀嚼筋 表情筋
第23回	骨格筋	筋収縮の基礎的性質、筋収縮の様態まとめ	筋収縮

評価方法	定期試験については、60点以上を合格とする。 評価の割合は、小テストなど総合的に判定する。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 著者：中村隆一 他：基礎運動学 第6版補訂、医歯薬出版株式会社 標準理学療法学・作業療法学解剖学第5版 医学書院
参考書	<ul style="list-style-type: none"> プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版、坂井建雄、医学書院 筋骨格系のキネシオロジー 第3版

理学療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	神経系統学Ⅲ		授業形態	講義	使用教室	PT2
講師	高山 翔平	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、実体験してきた神経系の各種症候とその考え方を講義に活かしている。			

教育目標	①自律神経系の構造と機能を学び説明できる。 ②反射について学び説明できる。 ③感覚機能に関与する基本的な神経の機能解剖を学び、感覚障害を理解する基礎とする。
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 末梢神経系(15)	オリエンテーション 脳神経(確認)
第2回	脳神経	脳神経の基本的な解剖学と機能を理解する。
第3回	脳神経	脳神経の分類とそれぞれの役割を学ぶ。
第4回	末梢神経系(16)	自律神経系②<交感神経系、副交感神経系>
第5回	末梢神経系(16)	自律神経系②<交感神経系、副交感神経系>
第6回	末梢神経系(17)	自律神経系の復習
第7回	反射(1)	反射とは、反射弓、単シナプス反射、多シナプス反射
第8回	反射(2)	脊髄反射①<伸張反射、α環>
第9回	反射(3)	脊髄反射②<相反抑制(Ia抑制)、自己抑制(Ib抑制)>
第10回	反射(4)	脊髄反射③<屈曲反射(逃避反射)>、脊髄反射の復習
第11回	反射(5)	表在反射、深部反射
第12回	反射(6)	反射の復習(国試)
第13回	感覚(1)	感覚とは、感覚の分類
第14回	感覚(2)	外皮①<皮膚の構造と機能、皮膚受容器、角質器、皮膚腺> 外皮の復習
第15回	感覚(3)	体性感覚① <表在感覚(皮膚感覚)および深部感覚の受容器>
第16回	感覚(4)	体性感覚②<体性感覚の神経路の復習①>
第17回	感覚(5)	体性感覚③<体性感覚の神経路の復習②>
第18回	感覚(6)	感覚障害<末梢神経系の障害、脊髄障害>
第19回	反射(7)	姿勢反射・反応①<原始反射>
第20回	反射(8)	姿勢反射・反応②<原始反射>
第21回	反射(9)	姿勢反射・反応③<立ち直り反応、平衡反応>
第22回	反射(9)	姿勢反射・反応③<立ち直り反応、平衡反応>
第23回	前期まとめ	

評価方法	・小テスト(1割)、定期試験(9割)にて総合的に判定し、60点以上を合格とする
教科書	・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版、医学書院 ・病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA ・シンプル生理学改訂第8版、南江堂
参考書	

理学療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	臓器系統学Ⅲ		授業形態	講義	使用教室	PT2
講師	大坪 健一	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を授業に反映している。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次臓器系統学Ⅰ,Ⅱの知識を再確認し、主に生理学の知識を習得する。 ・国家試験が解答できるレベルが今学習の到達点とする。 ・各臓器に関する機能を説明できる。
------	--

回	主題	内容	キーワード
第1回	血液	血液の一般的性質について	血液の機能 血液の組成 赤血球
第2回	血液	赤血球とヘモグロビンについて	
第3回	血液	白血球と免疫について	白血球 免疫
第4回	血液	白血球と免疫について	
第5回	血液	血液凝固と血漿蛋白について	血液凝固 血漿蛋白(アルブミン) 心臓の構造
第6回	循環	心臓の構造について	
第7回	循環	小テスト①/心臓の構造について	心臓の解剖 心臓の機能
第8回	循環	心臓の機能について	
第9回	循環	心筋の静止膜電位・活動電位について	心筋の特徴 活動電位 心電図
第10回	循環	心電図について	
第11回	循環	心ポンプ機能について	心ポンプ機能 心周期 心拍出
第12回	循環	心周期と心拍出について	
第13回	循環	小テスト②/循環とリンパ循環について	動静脈 リンパ 血圧
第14回	循環	血圧について	
第15回	循環	循環調節について	循環調節 呼吸器の解剖
第16回	呼吸	呼吸器の構造について	
第17回	呼吸	小テスト③/ガス交換について	ガス交換 呼吸運動 呼吸筋
第18回	呼吸	ガス交換と呼吸運動について	
第19回	呼吸	肺気量と換気について	肺気量 換気
第20回	呼吸	呼気と吸気の組成について	
第21回	呼吸	小テスト④/酸塩基平衡について	酸塩基平衡 呼吸調節
第22回	呼吸	呼吸の調節について	
第23回	まとめ	小テスト⑤/前期講義まとめ	

評価方法	受講状況及び小テスト全5回(25%)と定期試験(75%)の結果、100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	貴邑 富久子/根来 英雄 南江堂 改訂第8版 シンプル生理学
参考書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版 動画教材 ビジュランクラウド

作成日：令和7年4月1日

理学療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	内科学 I	授業の形態	講義		使用教室	視聴覚室
講師	井崎 義己				一般	

教育目標	総合病院や高齢者施設等での理学療法の経験を活かして総合的、体系的に講義を行う。また、長年にわたる教員経験から理学療法士・作業療法士に求められる内科疾患の基本的な症候や診察法、疾患について指導する。内科的疾患の原因や症状、治療法、予後、予防等について学習することで、疾病と障害、リハビリテーションとの関連についての理解を図る。
------	--

回	主題	内容
第1回	第2章 内科的診断と治療の実際①	・診断・鑑別診断の進め方 ・カルテの書き方 ・診察法
第2回	第2章 内科的診断と治療の実際②	・臨床検査 ・内科的治療
第3回	第3章 症候学①	【第1・2回の小テスト】 ・発熱 ・倦怠感 ・食思不振 ・悪心嘔吐 ・易感染性 ・意識障害
第4回	第3章 症候学②	・めまい ・浮腫むくみ ・レイノー現象 ・頭痛 ・リンパ腫腫脹 ・ショック
第5回	第4章 循環器疾患①	【第3・4回の小テスト】 ・循環器系の解剖生理
第6回	第4章 循環器疾患②	・循環器疾患の主な症候 ・循環器疾患の診断法
第7回	第4章 循環器疾患③	【第5・6回の小テスト】 ・循環器疾患各論(1)
第8回	第4章 循環器疾患④	・循環器疾患各論(2)
第9回	第8章 血液・造血器疾患①	【第7・8回の小テスト】 血液の生理・血液の検査法
第10回	第8章 血液・造血器疾患②	・血液疾患の主な症候 ・血液疾患各論
第11回	第5章 呼吸器疾患①	【第9・10回の小テスト】 ・呼吸器の解剖生理
第12回	第5章 呼吸器疾患②	・呼吸器疾患の症候と病態生理 ・臨床検査所見
第13回	第5章 呼吸器疾患③	【第11・12の小テスト】 ・呼吸器疾患各論(1)
第14回	第5章 呼吸器疾患④	・呼吸器疾患各論(2)
第15回	呼吸器・循環器疾患のまとめ	演習問題および解説

評価方法	小テスト(30点)、定期試験(70点)の合計点で評価する。そのうち60点以上を合格とする。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 内科学 第4版 医学書院
参考書	標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版、医学書院 『病気がみえる』シリーズ 医療情報科学研究所

理学療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	整形外科 I	授業の形態	講義		使用教室	講堂
担当講師	姫野 信吉 先生			一般		

教育目標	理学療法・作業療法に必要な整形外科の基礎と臨床を習得する。 国家試験に必要な・最低限の知識を確実に習得する。
------	---

回	主題	内容
第1回	基礎	骨関節の構造
第2回	基礎	骨関節の生理、骨粗鬆症
第3回	基礎	骨折
第4回	基礎	筋肉の構造と生理
第5回	疾患	神経の構造と生理
第6回	疾患	神経筋疾患
第7回	疾患	末梢神経障害
第8回	疾患	炎症、感染
第9回	基礎	RA以外の関節炎
第10回	基礎	免疫
第11回	疾患	RA(1)
第12回	疾患	RA(2)
第13回	疾患	変形性関節症
第14回	疾患	腫瘍 やけど
第15回	疾患	拮抗筋の働きと制御

評価方法	定期試験、出席状況を踏まえて60点以上を合格とする。
教科書	標準整形外科学 第15版、医学書院
参考書	

理学療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	神経内科学 I	授業の形態	講義		使用教室	視聴覚室
担当講師	上野 未貴 先生		一般			

教育目標	<p>本講義では、次の目標を設定する。</p> <p>1) 臨床実習に直結する内容を精査し、解説する。</p> <p>2) 各回に記載された学習の主題と内容を予習し、疑問点の解決、講義でイメージ化し、理解する。</p> <p>3) 筋電図、脳波、画像検査など、検査と評価項目はPT/OTの必須で臨床実習に直結するためその意味を理解してもらう。</p>
------	---

回	主題	内容
第1回	序論;障害とリハビリプログラム	リハビリテーションの概念、障害の階層性、評価・治療プログラム、地域リハなど
第2回	中枢神経系の解剖と機能	神経の発達と加齢、CNS・PNSの解剖と機能、髄液、可塑性、歩行
第3回	神経学的診断と評価	診断の実際、体幹・四肢の診察と検査、障害の評価
第4回	神経学的検査法	画像診断、電気生理学的検査、髄液検査、血液生化学的検査
第5回	意識障害と頭痛	意識障害、脳死、植物状態、頭痛、めまい、失神
第6回	錐体路・錐体外路徴候	運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮、錐体外路徴候、不随意運動
第7回	運動失調と感覚障害	運動失調の原因、分類、評価、リハビリ、感覚障害の分布と特徴
第8回	高次脳機能障害; 失語症	言語中枢の発達、局在、機能、失語症の診断、評価、リハビリ
第9回	高次脳機能障害; 失認と失行	失認の概念と分類、リハビリ、失行の概念と分類、リハビリ
第10回	高次脳機能障害; 認知症	記憶の分類、メカニズム、記憶障害、認知症の症状、病因、リハビリ
第11回	高次脳機能障害; 注意障害	注意障害の概念と分類、リハビリ
第12回	高次脳機能障害; 遂行機能障害	遂行機能障害の概念と分類、リハビリ
第13回	構音障害と嚥下障害	構音・嚥下障害の原因、診断と治療
第14回	脳神経外科領域の疾患	頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア
第15回	まとめ	

評価方法	定期試験、小テスト、出欠状況や授業態度などを総合して60点以上を合格とする。
教科書	神経内科学 第5版 川平編集 医学書院
参考書	病気がみえる 脳・神経 Vol 7 医療情報科学研究所 メディックメディア 絵でみる脳と神経 第3版 馬場編集 医学書院

作成日：令和7年4月1日

理学療法学科	2学年	通期(前期)	単位数	4	時間数	60
科目名	精神医学		授業形態	講義	使用教室	PT2
講師	渡辺 葵	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を通して患者様の状態やなぜそのような症状が出るのかを伝える。			

教育目標	①精神科のみならず、医療に携わる中での精神医学の基礎知識を身につける。 ②理学療法士、作業療法士国家資格に必要な知識を習得する。 ③現在の精神科領域を知るとともに、現代社会と人の心理との関係を把握する。
------	---

【前期】

回	主題	内容/キーワード
第1回	精神医学とは	授業オリエンテーション(人と精神の関係・精神医学の始まり)→導入 精神障害の捉え方/①精神障害の成因 ②症状の全体像
第2回	脳器質性精神疾患 (認知症)	知能(認知)とその障害/①知能・知能の障害とは ②認知の障害とは(認知症・軽度認知障害[MCI]の概要)
第3回	脳器質性精神疾患 (認知症)	認知症とその特徴/①成因 ②認知症の主症状(中核症状と周辺症状) ※中核症状:「記憶」「見当識」「遂行機能」「理解・判断力低下」「失行」などを含め説明
第4回	脳器質性精神疾患 (認知症)	4大認知症/①大脳皮質変性による認知症 ②脳血管障害による認知症 アルツハイマー型認知症/①特徴 ②症状と経過 ③病理・病態
第5回	脳器質性精神疾患 (認知症)	前頭側頭型認知症/①特徴 ②症状と経過 ③病理・病態 レビー小体型認知症/①特徴 ②症状と経過 ③病理・病態
第6回	脳器質性精神疾患 (認知症)	脳血管性認知症/①特徴 ②症状と経過 ③病理・病態 認知症の治療/①薬物療法 ②非薬物療法(音楽療法・リアリティオリエンテーションなど)
第7回	統合失調症	第1回小テスト(脳器質性精神疾患:認知症) 統合失調症の特徴とは(動画を通して疾患をイメージする)→導入 疫学/①成因と病態(仮説) ②発症頻度(生涯有病率) ③発症年齢と性差
第8回	統合失調症	症状/①ブローラーの基本症状(4A) ②陽性症状と陰性症状 陽性症状/①意志・欲動の障害(精神運動興奮) ②知覚の障害(幻覚)
第9回	統合失調症	陽性症状/①思考[思路]の障害(連合弛緩・思考減裂・思考途絶など) ②思考[内容]の障害(一次妄想・二次妄想) ③自我の障害(行動面:作為体験、思考面:作為思考)
第10回	統合失調症	陰性症状/①感情の障害(感情の平板化・両価性) ②意志・欲動の障害(自発性や活動性低下・無為自閉) 予後を左右する因子/①年齢 ②性差 ③症状 ④誘因の有無 ⑤発病の経過
第11回	統合失調症	古典的3病型/①妄想型 ②破瓜型 ③緊張型 治療/①薬物療法(抗精神病薬:定型・非定型抗精神病薬の種類と特徴、副作用) ②非薬物療法(リハビリテーションと家族支援) ③SST
第12回	気分障害	第2回小テスト(統合失調症) 気分(感情)障害の疫学/①成因 ②病型(単極性・双極性気分障害) 単極性気分障害(うつ病)/①有病率・好発年齢・性差 ②症状の特徴(感情の障害)
第13回	気分障害	単極性気分障害(うつ病)/①症状の特徴(意欲行為、思考の障害、身体症状) ②発症機制(遺伝・性格・環境・神経化学的変化など)
第14回	気分障害	双極性気分障害(躁うつ病)/①有病率・好発年齢・性差 ②症状の特徴(感情・意欲行為・思考の障害・身体症状)
第15回	気分障害	治療/①薬物療法(抗精神病薬:定型・非定型抗精神病薬の種類と特徴、副作用) ②非薬物療法(援助とリハビリテーション:対応の仕方・認知行動療法など)

評価方法	定期試験で60点以上を合格とし、定期テスト8割、小テスト2割で評価する
教科書	標準理学療法・作業療法専門基礎分野 精神医学 第4版
参考書	なし

理学療法学科	2学年	通期(後期)	単位数	4	時間数	60
科目名	精神医学		授業形態	講義	使用教室	PT2
講師	渡辺 葵	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を通して患者様の状態やなぜそのような症状が出るのかを伝える。			

教育目標	①精神科のみならず、医療に携わる中での精神医学の基礎知識を身につける。 ②理学療法士、作業療法士国家資格に必要な知識を習得する。 ③現在の精神科領域を知るとともに、現代社会と人の心理との関係を把握する。
------	---

【後期】

回	主題	内容/キーワード
第16回	神経症性障害	導入/①精神分析と精神活動(意識・無意識、防衛機制、自我など) 神経症性障害とは/①成因 ②疫学(各種理論[性格論:森田神経質、精神分析論:フロイト])
第17回	神経症性障害	不安および恐怖を中心とする神経症性障害/ ①全般性不安障害 ②パニック障害 ③広場恐怖 ④社交恐怖 強迫を中心とする神経症性障害/①強迫観念(強迫思考・強迫行為とは)
第18回	神経症性障害	ストレス関連障害/①急性ストレス反応 ②PTSD ③適応障害 解離を中心とする神経症性障害/①各種解離性障害の特徴
第19回	神経症性障害	身体表現性障害/①身体化障害 ②心気障害 治療/①治療の考え方 ②薬物療法 ③精神療法
第20回	パーソナリティ障害	第4回小テスト(神経症性障害) パーソナリティ障害とは/①パーソナリティとは(形成の背景) ②疾患の捉え方 類型/①境界型 ②妄想性 ③非社会性 ④演技性 ⑤強迫性 ⑥不安性 など…
第21回	パーソナリティ障害	類型/①境界型 ②妄想性 ③非社会性 ④演技性 ⑤強迫性 ⑥不安性 など… 治療と援助/①治療の考え方 ②対応の注意点 ※補足程度で確認:行動の障害、性の障害
第22回	生理的障害 (摂食障害・睡眠障害)	摂食障害/①神経性無食欲症(特徴) ②神経性大食症(特徴) 睡眠障害/①不眠症 ②過眠症・ナルコレプシー ③睡眠リズムの障害 ④その他
第23回	てんかん	第5回小テスト(パーソナリティ障害・生理的障害) てんかん/①成因(種類) ②成因別の特徴や予後 ③発作型と症状(全体像)
第24回	てんかん	全般起始発作/①ミオクローニー発作 ②強直間代発作 ③欠神発作 ③脱力発作 焦点起始発作/①焦点意識保持発作 ②焦点意識減損発作
第25回	てんかん	その他頻出発作型/①West・Lennox-Gastaut症候群(特徴と予後) ②側頭葉てんかん 治療/①薬物療法 ②発作時の対応方法
第26回	精神作用物質	第6回小テスト(てんかん) 精神作用物質・依存症の概要/①定義 ②用語:依存(精神・身体依存、耐性) アルコール関連障害/①酪酐(単純・異常) ②アルコール離脱症候群(大離脱・小離脱)
第27回	精神作用物質	アルコール関連障害/ ③関連用語(リープマン現象・コルサコフ症候群・アダルトチルドレン) 薬物関連障害/①各種薬物の特徴と依存性 治療/①薬物療法 ②精神療法(自助グループ・断酒会や集団療法) ※PTは簡単に触れる
第28回	精神遅滞(知的障害)	第7回小テスト(精神作用物質) 精神遅滞/①概要・特徴 ②類型(IQも含め) ③Down症 ④その他関連疾患の紹介
第29回	心理的発達障害	心理的発達障害とは/①特異的発達障害 ②広汎性発達障害 ③自閉症スペクトラム 特異的発達障害/①学習障害 ②その他(特徴の紹介)
第30回	心理的発達障害	広汎性発達障害/①自閉症 ②アスペルガー症候群 ③レット症候群 その他の発達障害/①ADHD ②チック ③選択制緘黙 ※PTは簡単な特徴の説明を中心に 治療(リハビリテーション)/①感覚統合療法 ②遊戯療法 ③行動療法

評価方法	受講状況及び定期試験(8割)・小テスト(2割)にて総合的に判定する。 定期試験については60点以上を合格とする。
教科書	標準理学療法・作業療法専門基礎分野 精神医学 第4版
参考書	なし

理学療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	理学療法評価学Ⅱ		授業形態	演習/講義	使用教室	PT2/治療室1
講師	丸山寿美恵/綾部雅章	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を授業に反映している。			

教育目標	①理学療法における評価の目的、対象、また評価の進め方などについて学ぶ ②各検査・測定ごとに評価の目的、対象、評価方法を学ぶ ③各検査・測定項目のつながりと各疾患の評価を学ぶ
------	--

回	主題	内容
第1回	筋力検査	筋力検査の目的と分類 粗大筋力検査、徒手筋力検査、測定器による評価、筋持久力検査
第2回	徒手筋力検査	意義・目的、判定基準、検査上の注意
第3回	徒手筋力検査	下肢(股関節 屈曲/屈曲・外転・外旋)
第4回	徒手筋力検査	下肢(股関節 外転/屈曲からの外転)
第5回	徒手筋力検査	下肢(股関節 内転/伸展)
第6回	徒手筋力検査	下肢(股関節 外旋/内旋)
第7回	徒手筋力検査	下肢(膝関節 屈曲/伸展)
第8回	徒手筋力検査	下肢(足関節 底屈/背屈と足の内がえし)
第9回	徒手筋力検査	下肢(足の内がえし/底屈を伴う足の外がえし)
第10回	徒手筋力検査	上肢(上肢帯筋力テストのインドロダクション/肩甲骨外転と上方回旋)
第11回	徒手筋力検査	上肢(肩甲骨 拳上/内転/下制と内転)
第12回	徒手筋力検査	上肢(肩甲骨 内転と下方回旋/広背筋)
第13回	徒手筋力検査	上肢(肩 屈曲/伸展/外転)
第14回	徒手筋力検査	上肢(肩 水平外転/水平内転/外旋/内旋)
第15回	徒手筋力検査	上肢(肘 屈曲/伸展、前腕 回外/回内)
第16回	徒手筋力検査	上肢(手関節 屈曲/伸展)
第17回	徒手筋力検査	体幹 伸展/骨盤拳上
第18回	徒手筋力検査	体幹 屈曲/回旋
第19回	徒手筋力検査	頭部 伸展/頸部 伸展/頭部 屈曲/頸部 屈曲
第20回	徒手筋力検査	片側胸鎖乳突筋を分離する屈曲/頸部回旋
第21回	検査結果の解釈	関節可動域制限と筋力測定の結果からのアセスメント
第22回	検査結果の解釈	関節可動域制限と筋力測定の結果からのアセスメント
第23回	検査結果の解釈	まとめ

評価方法	実技試験3割、定期試験7割とし、総合で6割以上を合格とする。 実技試験・定期試験のどちらか一方が6割未満の場合は、両者再試験とする。 実技試験・定期試験が未受験の場合は不合格とする。
教科書	新・徒手筋力検査法 原著第10版 協同医書出版 理学療法評価学 改訂第6版補訂版 金原出版株式会社 図解 理学療法検査・測定ガイド 第2版 文光堂 運動療法のための機能解剖学触診技術-上肢/下肢- メジカルビュー
参考書	プロメテウス解剖学コアアトラス

理学療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	運動療法Ⅱ		授業形態	演習/講義	使用教室	PT2・治療室Ⅰ
講師	川口 貴史	実務経験有	理学療法士として医療施設での臨床経験があり、その経験を活かし運動療法の基礎を伝える。			

教育目標	<p>①ストレッチングや関節モビライゼーションの概要を理解し、適切に実施できる</p> <p>②理学療法の基本となる運動療法の基礎を総論的に学習し、治療の理論や概念を理解する。運動療法の意義と目的を明確にし、リハビリテーション医学の中での位置づけを理解する。</p>
------	---

回	主題	内容
第1回	協調性機能と運動療法	協調性機能の基礎理解
第2回		フレネルエクササイズなど協調性改善の手法
第3回	中枢神経機能と運動療法	中枢神経疾患における運動療法の役割、リスク管理
第4回		ブルンストロームステージに基づいた手法
第5回	末梢神経機能と運動療法	末梢神経障害の特徴
第6回		神経筋再教育法、機能回復トレーニング
第7回	復習	第1回～第6回までの復習
第8回	加齢による運動機能変化	加齢に伴う筋骨格系の変化
第9回		高齢者への適切な運動療法(転倒予防、バランストレーニング)
第10回	運動学習と運動療法	運動学習の理論と実践
第11回		フィードバック法、その他理論
第12回	復習	第1回～第11回までの復習
第13回	ストレッチ	各部位のストレッチ方法と注意点 上肢
第14回		
第15回		
第16回		
第17回	関節モビライゼーション	関節モビライゼーションの理論
第18回		徒手的モビライゼーション技術
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回	総復習	実技練習、総復習

評価方法	小テスト1割、実技試験3割、定期試験6割とし、総合で6割以上を合格とする。実技試験が未受験の場合は不合格とする。また、実技試験・定期試験どちらか一方が6割未満の場合は 両者再試験 を実施する。
教科書	Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学 (メジカルビュー社)
参考書	運動療法学 改訂第2版 (金原出版)、IDストレッチング 第2版

理学療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	日常生活活動		授業形態	講義	使用教室	PT2
講師	丸山 寿美恵	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、ADL指導を実施した内容を活かす。			

教育目標	①ADLの概念を理解し、説明できる ②ADLと障害やQOLとの関係が理解できる ③基本的なADL評価(動作観察・各種評価法)の内容を理解し、実施することができる
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 日常生活活動の概念	日常生活活動の定義、ICFとの関係 定義、構成、ICF
第2回	日常生活活動の概念	基本的ADL、手段的ADL、QOLとの関係、ADLに対する支援 BADL、IADL、QOL
第3回	日常生活活動評価の概要	評価の目的・評価方法 ADL評価の目的、しているADL、できるADL
第4回	日常生活活動評価の概要	評価方法 質的評価(動作分析)、量的評価、評価の実践とポイント
第5回	代表的な評価指標	Barthel index(BI) 項目、判定(点数)、基準
第6回	代表的な評価指標	機能的自立度評価法(FIM) 概要、採点基準、利点・欠点
第7回	代表的な評価指標	機能的自立度評価法(FIM) セルフケア
第8回	代表的な評価指標	機能的自立度評価法(FIM) 排泄コントロール、移乗・移動
第9回	代表的な評価指標	機能的自立度評価法(FIM) コミュニケーション、社会的認知
第10回	代表的な評価指標	IADL、基本動作・バランス 手段的日常生活活動尺度(LawtonIADL)、老研式活動能力指標、FAI
第11回	基本動作とセルフケア	起居動作 寝返り、起き上がり、立ち上がり、座位・立位
第12回	基本動作とセルフケア	移乗動作 ベッド-車椅子間、トイレ動作、その他
第13回	基本動作とセルフケア/ 生活環境整備	移動動作・歩行/歩行補助具 杖歩行、杖の種類と目的
第14回	基本動作とセルフケア/ 生活環境整備	移動動作・歩行/歩行補助具 松葉杖歩行、クラッチの種類と目的、歩行器
第15回	基本動作とセルフケア/ 生活環境整備	移動動作・歩行/歩行補助具 車椅子駆動、車椅子の基本構造と種類、車椅子の処方

評価方法	2/3の出席を必要とする。 小テスト2割、定期試験8割の結果から総合的に判断し、60点以上を合格とする。
教科書	Crosslink理学療法学テキスト 日常生活活動学 メディカルビュー社
参考書	

理学療法学科	2学年	前期	単位数	1	時間数	45
科目名	介護・体験実習		授業形態	実習	使用教室	舞風台/PT2
講師	綾部 雅章	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、対象者との関わり方、基本的な検査方法の見学模倣を経験させることができる。			

教育目標	①学生としての心構えを身につける。 ②時間や規則を守る、体調管理ができる。 ③利用者様と職場スタッフとの人間関係をつくる。 ④報告・連絡・相談ができるようになる。 ⑤整理整頓ができる。 ⑥介護老人保健施設・サービス付き高齢者住宅の社会的な位置づけを理解する。 ⑦コミュニケーション能力の向上に努める。 ⑧見学を通して得られる情報を収集する。 ⑨記録を取り、提出することができる。
------	---

回	主題	内容
全体		
第1回	オリエンテーション	実習要綱説明
第2回	オリエンテーション	舞風台職員による施設説明
A班/B班/C班		
第3回	実習	舞風台にて実習を行う
第4回	実習	舞風台にて実習を行う
第5回	実習	舞風台にて実習を行う
第6回	実習	舞風台にて実習を行う
第7回	実習	舞風台にて実習を行う
第8回	実習	舞風台にて実習を行う
全体		
第9回	準備	発表準備
第10回	準備	発表準備
第11回	まとめ	実習内容について班ごとに発表
第12回	まとめ	実習内容について班ごとに発表
第13回	まとめ	実習内容について班ごとに発表
第14回	まとめ	実習内容について班ごとに発表
【後期】		
全体		
第15回	オリエンテーション	検査測定におけるオリエンテーション
第16回	オリエンテーション	検査測定におけるオリエンテーション
A班/B班/C班/D班		
第17回	検査測定	実習
第18回	検査測定	実習
第19回	検査測定	実習
第20回	検査測定	実習
第21回	まとめ	発表準備
第22回	まとめ	実習内容について班ごとに発表
第23回	まとめ	実習内容について班ごとに発表
第24回	まとめ	実習内容について班ごとに発表

評価方法	出席状況、教育目標の達成状況をもとに総合的に判断する。 後期に行われる「検査測定」の内容を含めて評価し、100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	なし
参考書	なし

理学療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	運動系統学Ⅳ		授業形態	講義	使用教室	PT2
講師	徳田 一貫	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	下肢を構成する筋の起始・停止、作用、神経支配を走行からイメージして理解できる。 姿勢と力学的概念を理解し歩行時の関節運動と筋活動の働きを理解できる。
------	---

回	主題	内容
第1回	股関節	股関節屈曲・伸展筋 ①起始・停止、②作用、③神経支配
第2回	股関節	股関節外転・内転筋 ①起始・停止、②作用、③神経支配
第3回	股関節	股関節外旋・内旋筋 ①起始・停止、②作用、③神経支配
第4回	股関節	二関節筋, 股関節筋復習 ①起始・停止、②作用、③神経支配
第5回	膝関節	大腿骨・脛骨の運動 ①ころがり運動、②すべり運動 ③半月板運動
第6回	膝関節	股関節屈曲・伸展筋 ①起始・停止、②作用、③神経支配
第7回	膝関節	股関節内旋・外旋筋 ①起始・停止、②作用、③神経支配
第8回	膝関節	二関節筋, 膝関節筋復習 ①起始・停止、②作用、③神経支配
第9回	足関節	足関節背屈・底屈筋 ①起始・停止、②作用、③神経支配
第10回	足関節	足関節内反・外反筋 ①起始・停止、②作用、③神経支配
第11回	足関節	足関節横断面 ①前・後方区画、②内・外側区画、③作用
第12回	足関節	足関節筋復習 ①起始・停止、②作用、③神経支配
第13回	筋の総論	骨格筋 ①骨格筋の構造、②筋フィラメントの構造、③神経筋接合部
第14回	筋の総論	筋収縮 ①運動単位、②筋収縮のメカニズム、③滑走説
第15回	筋の総論	筋線維の種類 ①エネルギー代謝、②筋線維の分類、③筋線維の特徴
第16回	運動学習	運動学習 ①運動学習、②パフォーマンス、③フィードバック
第17回	姿勢	姿勢 ①立位姿勢、②姿勢変化、重心
第18回	バイオメカニクス	バイオメカニクス ①仕事、②力学、③エネルギー
第19回	正常歩行	正常歩行 ①歩行周期、②立脚相、③遊脚相
第20回	正常歩行	正常歩行 ①ランチョロスアミーゴ方式、②重心移動、③矢状面の関節運動
第21回	正常歩行	正常歩行 ①前顔面の関節運動、②歩行の5要素、③床反力
第22回	正常歩行	正常歩行 ①ロッカーファンクション、②モーメント基礎、③関節モーメント
第23回	正常歩行・異常歩行	正常歩行と異常歩行 ①関節モーメント、②筋活動、③異常歩行

評価方法	定期試験については、60点以上を合格とする。 評価の割合は、小テスト、定期試験など総合的に判定する。
教科書	・著者；中村隆一 他：基礎運動学 第6版補訂、医歯薬出版株式会社 ・観察による歩行分析、医学書院 ・監訳；坂井建雄 他：プロメテウス 解剖学アトラス 第3版、医学書院 ・原著者；Donald A. Neumann：筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版、医歯薬出版株式会社
参考書	・監修；林典雄：運動器疾患の機能解剖学に評価と解釈(下肢編)、運動と医学の出版社 ・編集；伊藤元 他、標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学、医学書院 ・著者；竹内義享 他：カラー写真で学ぶ 骨・関節の機能解剖、医歯薬出版株式会社 ・原著者；A.I.KAPANDJI：カバンジー機能解剖学Ⅱ 上肢、体幹・脊柱 原著第6版、医歯薬出版株式会社

理学療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	神経系統学Ⅳ		授業形態	講義	使用教室	PT2
講師	川口 貴史	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、実体験してきた神経系の各種症候とその考え方を講義に活かしている。			

教育目標	①特殊感覚機能に関する基本的な神経の機能解剖を学び、疾患を理解する基礎とする。 ②運動機能に関する基本的な神経の機能解剖を学び、運動異常を理解する基礎とする。 ③機能局在について学び、高次脳機能障害を理解する基礎とする。 ④脳画像の基礎について学び、障害との関連を理解する。
------	--

回	主題	内容【キーワード】
第1回	特殊感覚	オリエンテーション/平衡聴覚器 【耳の解剖、半規管・前庭(平衡覚) コルチ器(聴覚)】
第2回		
第3回		味覚器・嗅覚器 【味蕾(舌乳頭) 顔面神経(舌の範囲) 嗅球(嗅覚伝導路)】
第4回		
第5回		視覚器 【網膜(杆体・錐体細胞) 視交叉(視野障害) 外側膝状体(視覚伝導路)】
第6回		
第7回		第1回～第7回 復習
第8回	運動に関わる神経	錐体路、錐体外路の機能【皮質脊髄路(錐体交叉・運動麻痺) 筋緊張亢進(錐体外路系障害) Babinski徴候(錐体路障害)】
第9回		大脳基底核の機能① 【神経回路(直接路・間接路) 黒質 淡蒼球】
第10回		大脳基底核の機能② 小脳の機能①【小脳脚 大脳・脊髄・前庭小脳 小脳核】
第11回		小脳の機能②
第12回		小脳の機能③
第13回		第8回～第12回 復習
第14回	脳の機能局在、 脳卒中回復メカニズム、発生	前頭葉、頭頂葉、大脳辺縁系の機能【遂行機能 空間把握 記憶】
第15回		側頭葉、後頭葉の機能【言語 視覚 ネットワーク】
第16回		神経可塑性【シナプス可塑性 アンマスキング】
第17回		第14回～第16回 復習
第18回	評価	脳波の基礎【てんかん発作 REM睡眠 徐波】
第19回		CT、MRIの基礎①【急性脳出血(CT高吸収) 拡散強調像(急性期脳梗塞) T2強調像(浮腫・慢性病変)】
第20回		CT、MRIの基礎② 脳の解剖と画像の見え方①【各スライスの位置関係】
第21回		脳の解剖と画像の見え方②【運動野 言語野】
第22回		第18回～第21回 復習
第23回	後期まとめ	総復習

評価方法	・小テスト(2割)、定期試験(8割)にて総合的に判定し、60点以上を合格とする
教科書	・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版、医学書院 ・シンプル生理学 改定第8版、南江堂 ・病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA
参考書	・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版、医学書院 ・標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版、医学書院 ・PTOTST 脳画像、医学書院

理学療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	臓器系統学Ⅳ		授業形態	講義	使用教室	PT2
講師	石田 恭涼	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、リハビリ現場で遭遇しやすい臓器関連疾患を知る基礎として学ぶ。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次臓器系統学の知識を再確認し、国家試験に見合う知識を得る。 ・国家試験が解答できるレベルが今学習の到達点とする。 ・内科学・整形外科学・神経内科学の基礎となるように学習する
------	---

回	主題	内容
第1回	消化器系(概論)	消化器の構造 ①消化管 ②腹腔臓器 ③腹膜後器官
第2回	消化器系(概論)	消化器の構造 ①CT/MRI画像 ②蠕動運動
第3回	消化器系(構造)	消化管の運動(口腔/咽頭) ①舌の構造 ②唾液腺 ③咽頭の解剖
第4回	消化器系(構造)	消化管の運動(嚥下/胃) ①嚥下反射 ②胃の解剖 ③胃の運動
第5回	消化器系(運動)	消化管の運動(小腸/大腸) ①腸間膜 ②粘膜 ③排便反射
第6回	消化器系(消化液)	消化液 ①胃液 ②膵液 ③胆汁
第7回	消化器系(消化と吸収)	消化酵素/吸収の仕組み ①消化酵素 ②受動輸送 ③能動輸送
第8回	消化器系(消化と吸収)	ホルモンの概要/肝臓 ①ホルモンの相互作用 ②肝臓の構造 ③胆汁
第9回	消化器系(栄養と代謝)	栄養と代謝 ①基礎代謝 ②解糖系 ③クエン酸回路
第10回	消化器系(栄養と代謝)	脂質・タンパク質代謝/エネルギー代謝 ①アトウォーター係数 ②呼吸比 ③RMR
第11回	泌尿器系(生成)	腎臓の構造 ①ネフロン ②糸球体 ③傍糸球体装置
第12回	泌尿器系(生成)	腎臓の働き ①原尿 ②近位尿細管 ③遠位尿細管
第13回	泌尿器系(生成)	尿のクリアランス ①クリアランス ②糸球体濾過量 ③対向流増幅系
第14回	泌尿器系(排泄)	尿に関わるホルモン ①レニン ②アンジオテンシン ③アルドステロン
第15回	泌尿器系(酸塩基平衡)	酸塩基平衡 ①pH ②アシドーシス ③アルカローシス
第16回	泌尿器系(排泄/生殖器)	膀胱の働きと神経支配/生殖器 ①排尿反射 ②生殖器の名称 ③月経
第17回	内分泌系(ホルモン)	内分泌 ①調節機構 ②視床下部 ③下垂体
第18回	内分泌系(ホルモン)	ホルモン成分と名称一覧 ①下垂体前葉ホルモン ②下垂体後葉ホルモン
第19回	内分泌系(ホルモン)	甲状腺ホルモン/カルシウム代謝に関わるホルモン ①甲状腺ホルモン ②カルシウム代謝に関わるホルモン
第20回	内分泌系(ホルモン)	副腎皮質・副腎髄質ホルモン ①副腎皮質ホルモン ②副腎髄質ホルモン
第21回	内分泌系(ホルモン)	膵臓ホルモン ①ランゲルハンス島 ②インスリン ③グルカゴン
第22回	内分泌系(ホルモン)	消化管ホルモン/その他のホルモン ①ガストリン ②セクレチン ③松果体ホルモン
第23回	まとめ	まとめ

評価方法	小テスト2割、定期テスト8割とし、総合で6割以上を合格とする。
教科書	杉 晴夫 南江堂 改訂第4版 人体機能生理学 国試の達人(運動解剖生理学編)
参考書	標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版. 医学書院. 著 石澤光郎、富永淳 標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版. 医学書院. 著 野村嶺

作成日：令和7年4月1日

理学療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	内科学Ⅱ	授業の形態	講義		使用教室	視聴覚室
講師	井崎 義己				一般	

教育目標	総合病院や高齢者施設等での理学療法の経験を活かして総合的、体系的に講義を行う。また、長年にわたる教員経験から理学療法士・作業療法士に求められる内科疾患の基本的な症候や診察法、疾患について指導する。内科的疾患の原因や症状、治療法、予後、予防等について学習することで、疾病と障害、リハビリテーションとの関連についての理解を図る。
------	--

回	主題	内容
第1回	第6章 消化管疾患①	・消化管の解剖生理 ・消化管の症候と病態生理
第2回	第6章 消化管疾患②	・消化器疾患の検査法 ・消化管疾患各論
第3回	第7章 肝胆膵疾患①	【第1・2回の小テスト】 ・肝臓、胆嚢、膵臓の解剖生理 ・肝胆膵疾患の検査法
第4回	第7章 肝胆膵疾患②	・肝胆膵疾患各論
第5回	第9章 代謝性疾患①	【第3・4回の小テスト】 ・代謝調節の仕組み
第6回	第9章 代謝性疾患②	・代謝性疾患各論
第7回	第10章 内分泌疾患①	【第5・6回の小テスト】 ・内分泌器官と分泌されるホルモンの解剖生理
第8回	第10章 内分泌疾患②	・内分泌疾患各論
第9回	第11章 腎・泌尿器疾患①	【第7・8回の小テスト】 ・腎・泌尿器系の解剖生理 ・腎疾患の症候と病態生理
第10回	第11章 腎・泌尿器疾患②	・腎、泌尿器疾患各論
第11回	第12章 アレルギー疾患、 膠原病と類縁疾患、免疫不全症①	【第9・10回の小テスト】 ・免疫系の働き
第12回	第12章 アレルギー疾患、 膠原病と類縁疾患、免疫不全症②	・アレルギー疾患 ・膠原病 ・リウマチ性疾患 ・免疫不全症
第13回	第13章 感染症疾患①	【第11・12回の小テスト】 ・感染症総論(病原体・感染経路・感染予防等)
第14回	第13章 感染症疾患②	・感染症各論
第15回	第14章 リハビリテーション に必要な栄養学	・栄養素 ・消化吸収と代謝 ・代替栄養素 等

評価方法	小テスト(30点)、定期試験(70点)の合計点で評価する。そのうち60点以上を合格とする。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 内科学 第4版 医学書院
参考書	標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版、医学書院 『病気がみえる』シリーズ 医療情報科学研究所

理学療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	整形外科Ⅱ	授業の形態	講義		使用教室	講堂
担当講師	姫野 信吉 先生				一般	

教育目標	理学療法・作業療法に必要な整形外科の基礎と臨床を習得する。 国家試験に必要・最低限の知識を確実に習得する。
------	--

回	主題	内容
第1回	上肢疾患(1)	肩甲帯～肩
第2回	上肢疾患(2)	肩～肘
第3回	上肢疾患(3)	肘～手
第4回	上肢疾患(4)	手～指
第5回	下肢疾患(1)	股(1)
第6回	下肢疾患(2)	股(2)
第7回	下肢疾患(3)	膝(1)
第8回	下肢疾患(4)	膝(2)～下腿
第9回	下肢疾患(5)	足
第10回	脊椎疾患(1)	頸椎疾患
第11回	脊椎疾患(2)	腰椎疾患
第12回	脊椎疾患(3)	脊髄損傷
第13回	脊椎疾患(4)	脊髄損傷(1)
第14回	脊椎疾患(5)	脊髄損傷(1)
第15回	脊椎疾患(6)	脊髄損傷(2)

評価方法	定期試験、出席状況を踏まえて60点以上を合格とする。
教科書	標準整形外科学 第15版、医学書院
参考書	

理学療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	神経内科学Ⅱ	授業の形態	講義		使用教室	視聴覚室
担当講師	上野 未貴 先生		一般			

教育目標	<p>本講義の各論では、次の目標を設定する。</p> <p>1) 各種の疾患に直結する内容を精査し、解説する。</p> <p>2) 各論の各回に記された学習の主題と内容を予習し、疑問点の解決、講義でイメージ化し、理解する。</p> <p>3) 検査、評価、診断とリハビリ治療、PT/OT関連項目は臨床実習に直結するためその意味を理解してもらう。</p>
------	--

回	主題	内容
第1回	脳血管障害(CVA)Ⅰ	脳血管障害とは、症状と分類
第2回	脳血管障害(CVA)Ⅱ	脳血管障害の診断と治療
第3回	脳血管障害(CVA)Ⅲ	リハビリテーションの実際
第4回	認知症	認知症とは、鑑別診断、治療可能な認知症
第5回	脳腫瘍	脳腫瘍とは、脳腫瘍各論
第6回	外傷性脳損傷	外傷性脳損傷の概要、症状と治療
第7回	変性・脱髄疾患	変性・脱髄疾患の分類と症状
第8回	錐体外路の変性疾患	錐体外路変性疾患の定義、錐体外路疾患各論(Parkinson病/Parkinson症候群)
第9回	末梢神経障害とてんかん	末梢神経障害の分類と所見、てんかんとは、てんかんの診断と治療
第10回	筋疾患Ⅰ	進行性筋ジストロフィー
第11回	筋疾患Ⅱ	重症筋無力症、多発性筋炎(皮膚筋炎)、内分泌代謝性筋疾患、その他筋疾患
第12回	感染性疾患	神経系の感染、感染性疾患各論
第13回	中毒・栄養欠乏性の神経疾患	中毒性疾患の種類、栄養欠乏性の神経疾患
第14回	小児神経疾患	脳性麻痺、二分脊椎、Down 症候群、先天性代謝異常
第15回	まとめ	

評価方法	定期試験、小テスト、出欠状況や授業態度などを踏まえて60点以上を合格とする。
教科書	神経内科学 第5版 川平編集 医学書院
参考書	病気がみえる 脳・神経 Vol 7 医療情報科学研究所 メディックメディア 絵でみる脳と神経 第3版 馬場編集 医学書院

作成日：令和7年4月1日

理学療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	小児科学		授業の形態	講義	使用教室	講堂
講師	佐藤 歩		一般			

教育目標	国家試験に出題される項目に沿って学習し、それらを習得すること リハビリテーションの現場において必要な小児科学の一般知識を習得すること
------	---

回	主題	内容
第1回	新生児・未熟児疾患	小児期の区分 用語 新生児仮死 神経学的所見
第2回	先天異常と遺伝病	先天異常 遺伝疾患 先天奇形 など
第3回	循環器疾患	胎児循環と新生児循環 チアノーゼ 心不全
第4回	呼吸器系疾患	肺の発生 界面活性 呼吸器疾患の臨床症状
第5回	感染症・消化器疾患	小児の感染症 消化器疾患など
第6回	内分泌・代謝疾患	内分泌疾患 糖代謝異常など
第7回	免疫疾患と泌尿器疾患	免疫 アレルギー 膠原病 腎・泌尿器 生殖器疾患など
第8回	小児科学総論	小児の成長・発育と発達 栄養と摂食 保健
第9回	発生	生命の誕生と発生 胚葉の形成
第10回	神経系疾患(1)	中枢神経疾患、てんかん等
第11回	神経系疾患(2)	脳性麻痺の分類・原因
第12回	神経系疾患(3)	脊髄・末梢神経疾患
第13回	筋系疾患	筋ジストロフィーの種類と特徴
第14回	骨関節系疾患	小児の骨折の特徴 等
第15回	振り返り	まとめ

評価方法	2/3以上の出席を前提とします。期末の筆記試験を実施し、総合で60%以上の得点を合格とします。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学
参考書	

理学療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	臨床技能演習Ⅱ		授業形態	演習・講義	使用教室	PT2・治療室1
講師	綾部 雅章	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を講義に反映させている。			

教育目標	①運動療法で学んだ治療技術を臨床応用に向けて確認する。 ②物理療法で学んだ機器について臨床応用に向けて確認する。 ③理学療法評価学で学んだ検査・測定を確認する。
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 客観的臨床能力試験とは	オリエンテーション 客観的臨床能力試験とは(復習)
第2回	技能;レベル2	脈拍測定、血圧測定
第3回	技能;レベル1	リスク管理「患者誤認防止、転倒予防、点滴管理、カテーテル管理」
第4回	技能;レベル1	リスク管理「患者誤認防止、転倒予防、点滴管理、カテーテル管理」
第5回	技能;レベル2	関節可動域測定(上肢:肩関節外転)
第6回	技能;レベル2	関節可動域測定(下肢:股関節外転)
第7回	技能;レベル2	関節可動域測定
第8回	技能;レベル2	関節可動域測定
第9回	技能;レベル2	形態測定(前腕周径)
第10回	技能;レベル2	形態測定(下肢長)+筋の触診
第11回	技能;レベル2	筋の触診
第12回	技能;レベル2	筋の触診
第13回	技能;レベル2	筋力測定(上肢)
第14回	技能;レベル2	筋力測定(上肢)
第15回	技能;レベル2	筋力測定(下肢)
第16回	技能;レベル2	筋力測定(下肢)
第17回	技能;レベル3	関節可動域運動
第18回	技能;レベル3	関節可動域運動
第19回	技能;レベル3	筋力増強運動
第20回	技能;レベル3	筋力増強運動
第21回	技能;レベル1	ホットパック実施の補助
第22回	技能;レベル2	ホットパック実施の補助
第23回	まとめ	まとめ

評価方法	実技試験6割、定期試験4割とし、総合で6割以上を合格とする。 実技試験・定期試験のどちらか一方が6割未満の場合は、両者再試験とする。 実技試験・定期試験が未受験の場合は不合格とする。
教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版、金原出版株式会社
参考書	

理学療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	物理療法		授業形態	講義	使用教室	PT2
講師	橋山浩介	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物理的作用と生理的作用、機器の原理、適応と禁忌、リスク管理を学習する。 ・国家試験に必要な知識を習得する。 ・各種物理療法機器の基本的な操作を学習する。
------	---

回	主題	内容
第1回	総論	オリエンテーション/物理療法とは
第2回	総論	物理療法機器の紹介/鎮痛メカニズム
第3回	温熱療法	温熱療法とは
第4回	温熱療法	ホットパック
第5回	温熱療法	パラフィン
第6回	温熱療法	極超短波療法・超短波療法
第7回	温熱療法	超音波療法
第8回	温熱療法	温熱療法 実習
第9回	温熱療法	温熱療法 実習
第10回	寒冷療法	寒冷療法とは/寒冷療法の作用・効果
第11回	寒冷療法	各種寒冷療法の実際
第12回	まとめ	温熱療法/寒冷療法まとめ
第13回	水治療法	水治療法とは/水治療法の作用・効果
第14回	水治療法	各種水治療法の実際
第15回	電気刺激療法	電気刺激療法とは
第16回	電気刺激療法	経皮的電気神経刺激/神経筋電気刺激
第17回	電気刺激療法	干渉電流療法/機能的電気刺激
第18回	電気刺激療法	バイオフィードバックなど
第19回	まとめ	水治療法/電気刺激療法まとめ
第20回	牽引療法	牽引療法とは/牽引療法の作用・効果
第21回	牽引療法	牽引療法 実習
第22回	光線・振動刺激・衝撃波療法	光線療法とは/振動刺激療法とは/衝撃波療法とは
第23回	まとめ	

評価方法	受講状況及び定期試験の結果で60点以上を合格とする。
教科書	Crosslink 理学療法学テキスト 物理療法学 メジカルビュー社
参考書	標準理学療法学 専門分野 物理療法学 第5版 医学書院

理学療法学科	2学年	後期	単位数	1	時間数	30
科目名	日常生活活動演習		授業形態	演習/講義	使用教室	治療室1
講師	丸山寿美恵	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、動作観察やADL評価や指導を実施していた内容を活かし指導する。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患別のADL指導について学ぶ ・OSCEにて動作介助における臨床技能を獲得することができる。
------	---

回	主題	内容
第1回	基本動作とセルフケア	セルフケア/日常生活用具・自助具 食事、整容、更衣、排泄、入浴
第2回	基本動作とセルフケア	手段的日常生活活動/日常生活用具・自助具 家事動作、屋外移、その他
第3回	代表的な疾患・障害における日常生活活動	片麻痺 特徴、評価の要点、介入
第4回	代表的な疾患・障害における日常生活活動	脊髄損傷、腰椎疾患 特徴、評価の要点、介入
第5回	代表的な疾患・障害における日常生活活動	関節リウマチ、変形性関節症 特徴、評価の要点、介入
第6回	OSCE(動作介助の仕方)	1. ポジショニング
第7回	OSCE(動作介助の仕方)	2. 起き上がり
第8回	OSCE(動作介助の仕方)	3. 起立・着座
第9回	OSCE(動作介助の仕方)	実技確認
第10回	OSCE(動作介助の仕方)	4. 移乗(自立支援)
第11回	OSCE(動作介助の仕方)	5. 車いす駆動
第12回	OSCE(動作介助の仕方)	5. 歩行
第13回	OSCE(動作介助の仕方)	実技確認
第14回	OSCE	更衣(上衣/下衣)
第15回	まとめ	実技練習

評価方法	2/3の出席を必要とする。 小テスト2割、実技試験4割、定期試験4割の結果を総合的に判断し、60点以上を合格とする。実技試験、定期試験、それぞれの結果が6割に満たない場合は、両者を再試験とする。
教科書	Crosslink理学療法学テキスト 日常生活活動学 メディカルビュー社 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編
参考書	

作成日：令和 7年 4月 1日

理学療法学科	3学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	統計学	授業の形態	講義		使用教室	講堂
講師	高元 宗一郎 先生		一般			

教育目標	統計の基本的な考え方を理解し、表計算ソフトを利用して目的の統計量を計算し、目的に応じた表現方法を用いることができる。分析するデータに応じた仮説検定を正しく選択することができる。また、リハビリテーション分野での統計解析を行うことができる。
------	--

回	主題	内容
第1回	表計算ソフトの操作 統計学入門	表計算ソフトの操作確認 統計学とは、記述統計と推測統計(第1章)
第2回	統計データの種類とまとめ方	統計データの種類(第2章)
第3回	統計データの種類とまとめ方	統計データのまとめ方(第2章)
第4回	統計データの種類とまとめ方	統計データのグラフ表示(第2章)
第5回	確率と分布	確率、順列、組合せ、確率分布(第3章)
第6回	母集団・標本と推定	母集団と標本、推定(第4章))
第7回	各種検定	検定の基礎知識(第5章)
第8回	各種検定	1群の標本の検定(第5章)
第9回	各種検定	2群の標本の検定(第5章)
第10回	各種検定	3群以上の標本の検定(第5章)
第11回	各種検定	比率の検定(第5章)
第12回	各種検定	相関係数の検定(第5章)
第13回	リハビリテーション分野 の統計学	総合問題
第14回	リハビリテーション分野 の統計学	総合問題
第15回	まとめ	まとめ

評価方法	レポート提出状況及び期末試験を総合的に判定し、60点以上を単位認定とする。
教科書	『系統看護学講座 基礎分野 統計学(第7版)』高木晴良 著 医学書院
参考書	『統計学入門』 東京大学教養学部統計学教室 東京大学出版会

理学療法学科	3学年	通期(前期)	単位数	3	時間数	75(45)
科目名	理学療法評価学Ⅲ		授業形態	演習/講義	使用教室	PT3/治療室1
講師	徳田 一貫	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を講義に反映させている。			

教育目標	① 理学療法における評価の目的、対象、また評価の進め方などについて学ぶ。 ② 各検査・測定ごとに評価の目的、対象、評価方法を学ぶ。 ③ 各検査・測定項目のつながりと、各疾患の評価を学ぶ。
------	---

回	主題	内容
第1回	総論振り返り	理学療法評価の意義・目的
第2回	筋緊張検査①	筋緊張とは、筋緊張とその調整、筋緊張の異常
第3回	筋緊張検査②	筋緊張検査の実際
第4回	筋緊張と関節可動域	筋緊張と関節可動域の制限因子
第5回	平衡機能検査①	バランスとは、静的バラス評価、Romberg試験・Mann試験・片足立ち検査
第6回	平衡機能検査②	FRT, TUG, BBS
第7回	整形外科疾患評価⑤	膝関節疾患に必要な評価の列挙
第8回	整形外科疾患評価⑥	膝関節疾患に必要な評価の実際、整形外科的テスト
第9回	整形外科疾患評価⑦	膝関節疾患評価の結果のアセスメントの考え方
第10回	整形外科疾患評価⑧	アセスメントから問題点の抽出
第11回	動作と機能評価の統合①	膝関節疾患の機能制限と動作の関連性①
第12回	疼痛検査	痛みの分類、痛みの検査手順、評価法
第13回	感覚検査①	感覚検査の意義・目的、感覚の種類、検査上の注意点、検査の手順と器具
第14回	感覚検査②	検査法(表在感覚)
第15回	感覚検査③	検査法(深部感覚, 複合感覚), 測定結果の記載法
第16回	感覚検査④	検査法(深部感覚, 複合感覚), 測定結果の記載法
第17回	深部腱反射	反射とは、深部腱反射①
第18回	表在反射	深部腱反射②, 表在反射
第19回	整形外科疾患評価①	腰部疾患に必要な評価の列挙
第20回	整形外科疾患評価②	腰部疾患に必要な評価の実際、整形外科的テスト
第21回	整形外科疾患評価③	腰部疾患評価結果のアセスメントの考え方
第22回	整形外科疾患評価④	アセスメントから問題点の抽出
第23回	動作と機能評価の統合②	腰部疾患の機能制限と動作の関連性②

評価方法	実技試験3割、定期試験7割とし、総合で6割以上を合格とする。 実技試験・定期試験のどちらか一方が6割未満の場合は、両者再試験とする。 実技試験・定期試験が未受験の場合は不合格とする。
教科書	・理学療法評価学 改訂第6版 金原出版 ・図解 理学療法検査測定ガイド 第2版 文光堂 ・PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 ・PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編
参考書	

理学療法学科	3学年	前期	単位数	1	時間数	30
科目名	臨床運動学		授業形態	講義	使用教室	PT3
講師	綾部 雅章	実務経験有	理学療法士として臨床で勤務した経験を活かし、授業へ反映する。			

教育目標	運動学の基礎知識をもとに動作がどのように行われているのか理解し、力学的に説明できるものであることを学ぶ。
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション(臨床運動学とは) 力の合成・分解の考え方①
第2回	力の合成と分解	力の合成・分解の考え方②
第3回	生体におけるテコ①	テコの考え方を生体に応用①
第4回	生体におけるテコ②	テコの考え方を生体に応用②
第5回	重心と床反力①	重心の考え方, 身体に加わる床反力
第6回	重心と床反力②	基底面・重心位置の関係
第7回	関節モーメントと筋活動, 関節モーメントのパワー	関節モーメントとは, 力学的仕事
第8回	寝返り動作	寝返り動作(重心・床反力・筋活動に着目)
第9回	寝返り動作	寝返り動作(重心・床反力・筋活動に着目)
第10回	起き上がり動作	起き上がり動作(重心・床反力・筋活動に着目)
第11回	起き上がり動作	起き上がり動作(重心・床反力・筋活動に着目)
第12回	立ち上がり・着座	立ち上がり動作(重心・床反力・筋活動に着目)
第13回	立ち上がり・着座	立ち上がり動作(重心・床反力・筋活動に着目)
第14回	歩行	歩行動作(重心・床反力・筋活動に着目)
第15回	歩行	歩行動作(重心・床反力・筋活動に着目)

評価方法	小テスト2割、定期試験8割とし、総合で6割以上を合格とする
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎バイオメカニクス 第2版(医歯薬出版) ・動作分析臨床活用講座 (メジカルビュー社) ・観察による歩行分析(医学書院)
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・筋骨格系のキネシオロジー(医歯薬出版)

作成日：令和7年4月1日

理学療法学科	3学年	通年(前期)	単位数	4	時間数	60(30)
科目名	義肢装具学	授業の形態	講義		使用教室	視聴覚
担当講師	野中 昭彦 先生		一般			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・義肢装具の理解 ・義肢装具の種類、疾患との関係の理解
------	--

【前期】

回	主題	内容
第1回	装具総論	装具とは？
第2回	体幹装具(1)	体幹装具とは？
第3回	体幹装具(2)	体幹装具について知ろう
第4回	体幹装具(3)	装具の種類と疾患との関係
第5回	体幹装具(4)	装具の種類と疾患との関係
第6回	上肢装具(1)	上肢装具とは？
第7回	上肢装具(2)	上肢装具について知ろう
第8回	上肢装具(3)	装具の種類と疾患との関係
第9回	上肢装具(4)	装具の種類と疾患との関係
第10回	下肢装具(1)	下肢装具とは？
第11回	下肢装具(2)	下肢装具について知ろう
第12回	下肢装具(3)	装具の種類と疾患との関係
第13回	下肢装具(4)	装具の種類と疾患との関係
第14回	車イス	車イスについて知ろう
第15回	装具まとめ	まとめ

評価方法	定期試験、出席状況を踏まえて60点以上を合格とする。
教科書	義肢装具のチェックポイント 第7版 医学書院
参考書	なし

理学療法学科	3学年	前期	単位数	1	時間数	30
科目名	運動器障害理学療法 I		授業形態	講義/演習	使用教室	PT3
講師	橋山浩介	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を講義に活かしている。			

教育目標	運動器疾患に対する病態を理解し、系統的な評価ならびに治療手技を選択することができる。
------	--

回	主題	内容
第1回	肩関節疾患	肩関節の機能解剖
第2回	肩関節疾患	肩関節周囲炎
第3回	肩関節疾患	肩関節周囲炎
第4回	肩関節疾患	肩関節周囲炎
第5回	肩関節疾患	腱板断裂
第6回	肩関節疾患	腱板断裂
第7回	肩関節疾患	腱板断裂
第8回	肘の疾患	肘関節の機能解剖
第9回	肘の疾患	上腕腕骨外側上顆炎
第10回	肘の疾患	上腕骨内側上顆炎
第11回	頸椎疾患	頸部の機能解剖
第12回	頸椎疾患	頸部疾患の概念
第13回	頸椎疾患	頸部疾患に対する評価と理学療法
第14回	頸椎疾患	頸部疾患に対する評価と理学療法
第15回	まとめ	まとめ

評価方法	小テスト(1割)、定期試験(9割)にて判定し、総合6割以上を合格とする
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション (羊土社) ・病気が見える 運動器・整形外科学(MEDIC MEDIA) ・標準整形外科学 第14版 (医学書院)
参考書	理学療法ガイドライン など

理学療法学科	3学年	前期	単位数	2単位	時間数	45時間
科目名	運動器障害理学療法学Ⅱ		授業形態	講義／演習	使用教室	PT3／治療室1
講師	徳田一貫	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を活かし授業に反映している。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主に上肢・下肢の運動器疾患について、疾患の特徴を理解する。 ・疾患に対する適切な評価を選択し、実施できる。 ・疾患のリスクを把握し、適切な治療を選択し実施できる。
------	--

回	主題	内容
第1回	変形性関節症	総論
第2回	変形性股関節症	概要
第3回	変形性股関節症	保存療法の理学療法
第4回	変形性股関節症	手術療法の理学療法
第5回	変形性股関節症	手術療法の理学療法、ADL指導
第6回	変形性股関節症	変形性股関節症の理学療法、実技
第7回	変形性膝関節症	概要
第8回	変形性膝関節症	保存療法の理学療法、講義
第9回	変形性膝関節症	保存療法の理学療法、実技
第10回	変形性膝関節症	手術療法の理学療法、講義
第11回	変形性膝関節症	手術療法の理学療法、実技
第12回	関節リウマチ	総論（診断基準など、関節症状、治療）
第13回	関節リウマチ	総論（診断基準など、関節症状、治療）
第14回	関節リウマチ	評価と理学療法
第15回	関節リウマチ	評価と理学療法、ADL指導
第16回	関節リウマチ	ADL指導
第17回	確認	
第18回	末梢神経損傷	総論、絞扼性神経障害（腕神経叢麻痺）
第19回	末梢神経損傷	胸郭出口症候群 特徴と理学療法
第20回	末梢神経損傷	絞扼性神経障害（橈骨神経、正中神経、尺骨神経）
第21回	末梢神経損傷	絞扼性神経障害（大腿神経、坐骨神経）
第22回	末梢神経損傷	理学療法/装具療法
第23回	まとめ	

評価方法	2/3出席を必要とする。 小テスト1割、定期試験9割としの結果から総合的に60点以上を合格と判断する。
教科書	標準整形外科学 第15版 医学書院 病気が見える 運動器・整形外科学 MEDIC MEDIA ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション 羊土社
参考書	筋骨格系のキネシオロジー 医歯薬出版 プロメテウス解剖学アトラス 医学書院 ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション 羊土社 ここがポイント整形外科疾患の理学療法 金原出版 膝関節理学療法マネジメント メジカルビュー社 整形外科運動療法ナビゲーション（下肢） メジカルビュー社 多関節運動連鎖からみた変形性関節症の保存療法 全日本病院出版会

理学療法学科	3学年	前期	単位数	1	時間数	30
科目名	神経障害理学療法 I		授業形態	講義	使用教室	PT3
講師	石堂 優太	実務経験有	理学療法士として勤務した臨床経験を活かし、疾患理解や理学療法のイメージ理解を促していく。			

教育目標	①疾患に関する機能解剖、病態生理を理解できる。 ②疾患に関する評価や治療内容といった理学療法プログラムについて理解し、説明できる。 ③国家試験レベルで問われる知識について、理解できる。
------	--

回	主題	内容
第1回	筋疾患 筋ジストロフィー	筋疾患総論 筋ジストロフィーについて
第2回	筋ジストロフィー	筋ジストロフィーについての評価・治療プログラム
第3回	多発筋炎・皮膚筋炎	多発筋炎・皮膚筋炎について
第4回	多発筋炎・皮膚筋炎	多発筋炎・皮膚筋炎の評価・治療プログラム
第5回	重症筋無力症	重症筋無力症について
第6回	重症筋無力症	重症筋無力症の評価・治療プログラム
第7回	脊椎・脊髄疾患	脊髄の解剖・機能、脊椎・脊髄疾患について
第8回	脊椎・脊髄疾患	脊椎・脊髄疾患の評価・治療プログラム
第9回	脊髄損傷	脊髄損傷について
第10回	脊髄損傷	脊髄損傷について
第11回	脊髄損傷	脊髄損傷の評価
第12回	脊髄損傷	脊髄損傷の評価
第13回	脊髄損傷	脊髄損傷に対する理学療法
第14回	脊髄損傷	脊髄損傷に対する理学療法
第15回	まとめ	授業全体のまとめ

評価方法	2/3出席を必要とする。 小テスト2割、定期試験8割とし、総合で6割以上を合格とする 定期試験については60点以上を合格とする。
教科書	病気がみえる 7 脳・神経 第2版 シンプル理学療法シリーズ 標準理学療法学 神経理学療法学 第3版 脊髄損傷理学療法マニュアル 第3版 神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ 改定第2版 ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション
参考書	神経筋障害理学療法学テキスト 改訂第3版

理学療法学科	3学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	神経障害理学療法学Ⅱ		授業形態	講義/演習	使用教室	PT3/治療室
講師	川口 貴史	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を活かし、授業に反映している。			

教育目標	① 脳画像の特徴と病変の捉え方を理解する ② 脳血管障害の病型、頭部外傷の概念を理解し、治療と評価、理学療法につなげることができる ④ 高次脳機能障害に対する理学療法の考え方を理解する ③ 急性期治療と理学療法の役割を理解する
------	--

回	主題	内容
第1回	脳卒中の障害総論	脳動脈・ネットワーク復習 支配領域の整理、神経ネットワークの概要
第2回		中枢神経系の構造と脳画像 急性期・回復期の画像を読む際の基本視点、応用
第3回		
第4回	脳卒中の病態とリスク管理 各病態の急性期対応 合併症 発症機序 危険因子 症候の特徴	脳出血(被殻出血、視床出血、小脳出血、橋出血)
第5回		脳梗塞(アテローム血栓性、心原性血栓性、ラクナ梗塞)
第6回		
第7回		くも膜下出血(動脈瘤破裂の病態と症状)
第8回		
第9回		
第10回	頭部外傷	頭部外傷(びまん性軸索損傷、脳挫傷、硬膜外・硬膜下血腫) 画像所見の特徴と重症度分類
第11回		急性期の頭蓋内圧管理、意識障害患者への対応、家族指導
第12回	高次脳機能障害	身体失認・病態失認 評価と治療 転倒、意欲、ADL安全性確保
第13回		半側空間無視 評価と治療 支援の工夫(視線誘導、環境設定など)
第14回		姿勢定位障害(Pusher現象、Lateropulsion) 評価と治療 座位・立位保持、重心感覚の再学習
第15回		
第16回		失行 観念失行・観念運動失行・構成失行の評価と治療
第17回	上肢機能障害	評価と治療方法 脳卒中片麻痺患者の上肢機能回復アプローチ
第18回		
第19回	脳卒中患者の評価	評価の流れ
第20回		スクリーニング的機能検査 総合評価
第21回	急性期リハビリテーション	急性期における病態別理学療法のポイント
第22回		脳卒中急性期の管理(意識レベル、合併症、誤嚥・呼吸管理 など) ベッド上ポジショニング、早期離床、廃用予防
第23回	総復習	ケーススタディ(症例検討)

評価方法	小テスト(2割)、定期試験(8割)を総合的に判定し、60点以上を合格とする。
教科書	標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版 医学書院 病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA
参考書	リハに役立つ脳画像 MEDICAL VIEW 脳卒中ガイドライン2021 脳卒中理学療法の理論と技術 第4版 MEDICAL VIEW

作成日：令和7年4月1日

理学療法学科	3学年	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
科目名	内部障害理学療法 I		授業形態	演習・講義	使用教室	治療室/PT3
講師	大坪健一・平川太輝(非常勤)	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、内部疾患の理学療法に携わった経験を授業に反映させている。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動生理学の基礎を理解する。 ・呼吸器疾患に対する理学療法を習得する。
------	---

回	主題	内容
第1回	内部障害総論(大坪)	オリエンテーション/内部障害理学療法の必要性
第2回	運動生理学(大坪)	運動生理学について
第3回	運動負荷試験(大坪)	運動負荷試験
第4回	運動処方(大坪)	運動処方
第5回	運動処方(大坪)	運動処方
第6回	呼吸器疾患(平川)	呼吸器疾患:解剖
第7回	呼吸器疾患(平川)	呼吸器疾患:解剖
第8回	呼吸器疾患(平川)	呼吸器疾患:生理
第9回	呼吸器疾患(平川)	呼吸器疾患:生理
第10回	呼吸器疾患(平川)	呼吸器疾患:評価
第11回	呼吸器疾患(平川)	呼吸器疾患:評価
第12回	呼吸器疾患(平川)	呼吸器疾患:治療
第13回	呼吸器疾患(平川)	呼吸器疾患:COPD
第14回	呼吸器疾患(平川)	呼吸器疾患:COPD
第15回	呼吸器疾患(平川)	呼吸器疾患:まとめ

評価方法	定期試験の結果、60点以上を合格とする。
教科書	解良武士・椿淳裕編 Crocslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学
参考書	解剖学、生理学、運動学、病理学の各教科 (動画教材) VISUAL-EARN

作成日：令和7年4月1日

理学療法学科	3学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	理学療法技術論	授業の形態	講義		使用教室	PT3
担当講師	辻川真悟／丸山陸大／名嶋純一		一般			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 各関節における理学療法を機能解剖を理解した上で実施できる。 異常歩行の捉え方を理解し、ICFでの整理ができ、統合と解釈に繋げることができる。
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 肩関節	肩関節安定化機構(骨構造)、骨の触診
第2回	肩関節	肩関節安定化機構(軟部組織)、筋の触診
第3回	肩関節	肩関節安定化機構(肩甲帯機能)、肩甲帯評価、関節可動域制限
第4回	肩関節	疼痛誘発テスト、筋機能テスト、伸張テスト
第5回	股関節	股関節の基礎解剖・骨触診
第6回	股関節	股関節周囲筋の触診
第7回	股関節	整形外科的テスト・可動域制限に対する治療
第8回	股関節	股関節まとめ
第9回	膝関節	膝関節 骨触診
第10回	膝関節	膝関節 軟部組織触診 評価 治療(適宜整形テスト実施)
第11回	膝関節	膝関節 軟部組織触診 評価 治療(適宜整形テスト実施)
第12回	膝関節	膝関節 軟部組織触診 評価 治療(適宜整形テスト実施)
第13回	膝関節	膝関節 軟部組織触診 評価 治療(適宜整形テスト実施)
第14回	膝関節	膝関節 軟部組織触診 評価 治療(適宜整形テスト実施)
第15回	歩行 まとめ	統合と解釈

評価方法	定期試験の結果、総合的に60点以上を合格とする。
教科書	
参考書	なし その他 別資料 配布時あり

作成日：令和7年4月1日

理学療法学科	3学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	地域リハビリテーション	授業の形態	講義		使用教室	PT3
担当講師	松下泰輔／藤本慎治／大森岬貴		一般			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域リハビリテーションへの理解を深める ・理学療法士が関わる制度を知り、必要時に関連事項を想起できる。 ・さまざまな活動の場、内容を知り、捉え方を学ぶ。
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 地域リハビリテーションへの導入	地域リハビリテーション概要、ICFなど
第2回	介護保険概要	社会保障とは 介護保険に関わる時にしていること
第3回	地域包括ケアシステムとは	地域での 理学療法士の活動① リハビリテーションに関わる社会のしくみ
第4回	うきは市でのPT・OT・STの活動 行政との関わり	地域での理学療法士の活動② 理学療法士が行政と連携し提供できること
第5回	地域支援事業	地域での理学療法士の活動③
第6回	訪問リハビリテーション	介護保険サービス下でのリハビリテーション① 在宅へのリハビリテーション介入
第7回	通所リハビリテーション	介護保険サービス下でのリハビリテーション② 通所系サービスの役割と理学療法士の関わり方
第8回	介護老人福祉施設 介護老人保健施設	介護保険サービス下でのリハビリテーション③ 施設サービスの種類と理学療法士の関わり方
第9回	福祉用具(座学・演習)	能力補助を行うために 福祉用具の種類を知る 福祉用具を扱う
第10回	住宅改修①(座学)	理学療法士が環境整備に関わる時①
第11回	住宅改修②(演習)	理学療法士が環境整備に関わる時②
第12回	介護予防の概論	介護予防の基本的な概念と評価方法について
第13回	介護予防の実際	現場で実施している介護予防の取り組みについて実技を交え紹介
第14回	他職種連携	他職種とのかかわりについて(演習)
第15回	他職種連携	他職種とのかかわりについて(演習)

評価方法	テスト 60% 出席度 40% 総合的に60点以上を合格とする。
教科書	シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学 テキスト
参考書	なし その他 別資料 配布時あり

理学療法学科	3学年	前期	単位数	1	時間数	30
科目名	生活環境論		授業形態	講義／演習	使用教室	PT3
講師	丸山 寿美恵	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、家屋調査・訪問指導などの経験を活かす。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境とはなにかと学ぶ。 ・住環境整備に必要な基本的知識を学び、理解する。 ・住環境整備に必要な制度について理解する。 ・症例を通し、住環境整備に必要な思考力を身に付ける。
------	---

回	主題	内容
第1回	多職種連携	看護学校合同授業
第2回	多職種連携	看護学校合同授業
第3回	1章 生活環境学の考え方	生活環境学の考え方：生活環境学の概念、ICFの中の環境因子、理学療法士の役割と視点
第4回	2章 日本における生活環境の特徴と課題	高齢者・障害者を取り巻く生活状況、日本式住宅の特徴と問題点
第5回	3章 生活環境整備に関する法的制度	介護保険、対象となる住宅改修・福祉用具、障害者総合支援法
第6回	4章 生活環境整備の進め方	課題：自宅の配置図、平面図(家具の位置も含め)を記載 基本検討事項、生活・動作・介護予防の評価の視点、動線に配慮した評価の視点
第7回	5章 生活環境整備の基本① 6章 生活環境整備の基本②	演習：環境を体験する ①段差・スペース・木材 ②手すり・建具
第8回	7章 玄関・アプローチの環境整備 8章 廊下・階段の環境整備	環境整備のポイント
第9回	9章 トイレの環境整備 10章 浴室・脱衣室の環境整備	環境整備のポイント
第10回	13章 疾患別環境整備	脳血管障害：屋外歩行レベル、屋内歩行レベル、車椅子レベル
第11回	13章 疾患別環境整備	パーキンソン病：重症度分類stage I～II、stage III～IV
第12回	13章 疾患別環境整備	脊髄損傷：玄関・アプローチ、トイレ、浴室・脱衣室
第13回	14章 基本的な建築図面の読み方・書き方 症例検討	自宅の平面図・立体図を住宅改修する
第14回	症例検討	自宅の平面図・立体図を住宅改修する
第15回	症例検討	自宅の平面図・立体図を住宅改修する レポート提出

評価方法	2/3以上の出席を必要とする。 小テスト1割、提出課題3割、定期試験6割、総合的に60点以上を合格とする。 提出遅れなどあれば減点とする。
教科書	シンプルPTOTシリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版 南江堂
参考書	福祉住環境コーディネーター検定試験2級 改訂第6版 国試の達人 理学療法編 IPEC

理学療法学科	3学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	社会性向上セミナーⅡ		授業形態	講義/演習	使用教室	講堂/視聴覚室
講師	綾部/丸山/久保/津留寄/石川		理学療法士・作業療法士として医療施設での臨床経験を活かし、自身との向き合い方を活かす。			

教育目標	①自身の「思考」や「感情」に気付くことができる。 ②自己理解と他者理解から、「正直さ」「誠実さ」に気付くことができる。 ③「人のための自分になる」利他の心で描く未来像が明確になる。 ④国家試験対策にむけた本物のグループ学習を実践できる。
------	---

回	主題	内容
第1回	自己理解と他者理解	レクレーション(QU)を通して、自己や他者の理解を深める
第2回		
第3回	自己理解と他者理解	レクレーション(QU)を通して、自己や他者の理解を深める 思考や感情からの妄想(思い込み)に気付く
第4回		
第5回	自己紹介/他己紹介	自分自身への気づきと賞賛
第6回		
第7回	過去を振り返る (小学校・中学校・高校)	過去の出来事とその時の思考や感情を表出
第8回		
第9回	人としての価値とは	人の価値のとらえ方と自身の将来像
第10回	3分間スピーチ	自己開示と承認。 上限のない将来像に向け、現在とどう向き合うか
第11回		
第12回	国家試験対策	本物のグループ学習とは
第13回		
第14回	国家試験対策	本物のグループ学習とは
第15回		

評価方法	自分気付きノートの作成 それぞれのワークで実施した資料や感想をまとめ、ポートフォリオを作成し、成果物とする。 出席状況、授業態度、レポート、ポートフォリオを総合的に評価し、60点以上を合格とする
教科書	なし
参考書	なし

理学療法学科	3学年	後期	単位数	1	時間数	30
科目名	生理学演習	授業の形態	講義／演習		使用教室	講堂
講師	外部講師				一般	

教育目標	1) リハビリテーションにおける薬理学・栄養学について理解する。 2) X線、CT、MRIの基礎を理解する。 3) 吸引の方法を理解する。 4) AEDの操作方法について理解する。 5) 心電図、スパイロメーター、筋電図など、定番の実習はPT/OTの必須項目で臨床実習に直結するため機器の使い方やその意味を理解してもらう。
------	---

回	主題	内容
第1回	画像の特徴と原理	単純X線、CT、MRI画像の特徴を基本原理を理解する。
第2回	単純X線、CT、MRI画像正常画像①	画像上での基本解剖と診かたを理解する。(頭部・頸部)
第3回	単純X線、CT、MRI画像正常画像②	画像上での基本解剖と診かたを理解する。(胸部・腹部・骨盤部)
第4回	単純X線、CT、MRI画像正常画像③	画像上での基本解剖と診かたを理解する。(骨軟部・脊椎・四肢関節)
第5回	救急救命 AED	
第6回	救急救命 AED	
第7回	吸引	
第8回	吸引	
第9回	薬理学／臨床薬理学	薬を理解するために必要な基礎知識／薬の概念と分類／薬の作用はどのように発揮されるか
第10回	薬理学／臨床薬理学	薬の作用に影響する因子／薬の使い方／各疾患の薬物療法
第11回	栄養学	主な病態の栄養管理／静脈・経腸栄養法
第12回	栄養学	リハビリテーションと栄養
第13回	実習Ⅰ	心電図、スパイロメーター、パルスオキシメータ、ハンドヘルドダイナモメータ
第14回	実習Ⅱ	心電図、スパイロメーター、パルスオキシメータ、ハンドヘルドダイナモメータ
第15回	まとめ	

評価方法		定期試験、実習レポートや授業態度などを総合して60点以上を合格とする。
教科書		ケアに使える画像のみかた
参考書		

作成日：令和7年4月1日

理学療法学科	3学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	理学療法管理学	授業の形態	講義	使用教室	PT3	
講師	(代表)壇 万紀也 先生/その他4名		一般			

教育目標	質の高いチーム医療を提供できるよう、社会保障制度の理解やその変化に素早く適応する対応力と、組織運営に関するマネジメント能力、また職業倫理や理学療法教育について学習する。
------	--

回	主題	内容
第1回	管理とは	医療・看護・リハビリテーションにおける管理学
第2回	管理/運営	診療報酬について
第3回	管理/運営	診療報酬と人件費
第4回	リスク管理について	医療の質的保証/医療の安全性/ヒューマンエラー
第5回	リスク管理について	理学療法・作業療法で起こり得る有害事象/クレーム対応
第6回	疾患別マネジメント	疾患別リスクマネジメント
第7回	職業倫理	職業倫理について
第8回	組織運営とマネジメント	病院分類と組織/組織と関連法規
第9回	組織運営とマネジメント	業務管理
第10回	組織運営とマネジメント	情報管理
第11回	キャリアデザイン	理学療法士・作業療法士のキャリアデザイン
第12回	社会保障制度とマネジメント	社会保障制度とは/介護保険とは
第13回	管理/運営	介護保険関連施設における管理・運営
第14回	疾患別・病期別マネジメント	介護老人保健施設におけるマネジメント
第15回	まとめ	本講義のまとめ

評価方法	定期試験、実習レポートや授業態度などを総合して60点以上を合格とする。
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法管理学 中山書店
参考書	

理学療法学科	3学年	通期(後期)	単位数	3	時間数	75(30)
科目名	理学療法評価学Ⅲ		授業形態	講義／演習	使用教室	PT3／治療室1
講師	綾部 雅章	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を講義に反映させている。			

教育目標	① 理学療法における評価の目的、対象、また評価の進め方などについて学ぶ。 ② 各検査・測定ごとに評価の目的、対象、評価方法を学ぶ。 ③ 各検査・測定項目のつながりと、各疾患の評価を学ぶ。
------	---

回	主題	内容
第1回	検査測定(片麻痺機能検査)①	はじめに、片麻痺の運動障害の特徴、片麻痺の運動機能に対する評価
第2回	検査測定(片麻痺機能検査)②	Brunnstrom テスト
第3回	検査測定(片麻痺機能検査)③	Brunnstrom テスト
第4回	検査測定(片麻痺機能検査)④	12段階式片麻痺機能検査
第5回	検査測定(片麻痺機能検査)①	脳卒中機能評価法(SIAS)
第6回	検査測定(片麻痺機能検査)②	脳卒中機能評価法(SIAS)
第7回	検査測定(片麻痺機能検査)②	OSCE:SIAS
第8回	検査測定(反射検査)①	反射検査-病的反射-
第9回	検査測定(高次脳機能検査)①	高次脳機能の定義と概要、失認・失行の評価
第10回	検査測定(高次脳機能検査)②	失語の評価、注意障害の評価
第11回	検査測定(高次脳機能検査)③	記憶障害、知的機能障害の評価、精神機能の概要と評価
第12回	検査測定(協調性検査)①	協調性のある運動とは、運動失調とは
第13回	検査測定(協調性検査)②	運動失調の分類、運動失調検査の実際
第14回	検査測定(協調性検査)③	OSCE:運動失調検査
第15回	検査測定	まとめ

評価方法	実技試験3割、定期試験7割とし、総合で6割以上を合格とする。 実技試験・定期試験のどちらか一方が6割未満の場合は、両者再試験とする。 実技試験・定期試験が未受験の場合は不合格とする。
教科書	・理学療法評価学 改訂第6版 金原出版 ・図解 理学療法検査測定ガイド 第2版 文光堂 ・PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版 ・PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編
参考書	

作成日：令和7年4月1日

理学療法学科	3学年	通年(後期)	単位数	4	時間数	60(30)
科目名	義肢装具学	授業の形態	講義		使用教室	視聴覚室/講堂
担当講師	金子 凱 先生				一般	

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・義肢装具の理解 ・義肢装具の種類、疾患との関係の理解
------	--

【後期】

回	主題	内容
第1回	義肢総論	義肢とは？
第2回	義手(1)	義手とは？
第3回	義手(2)	義手とは？
第4回	義手(3)	義手の種類とチェックポイント等
第5回	義手(4)	義手の種類とチェックポイント等
第6回	義手(5)	義手の種類とチェックポイント等
第7回	義足(1)	義足とは
第8回	義足(2)	義足とは
第9回	義足(3)	義足の種類とチェックポイント等
第10回	義足(4)	義足の種類とチェックポイント等
第11回	義足(5)	義足の種類とチェックポイント等
第12回	義肢装具体験	体験実習
第13回	義肢装具体験	体験実習
第14回	義肢まとめ	まとめ
第15回	義肢まとめ	まとめ

評価方法	定期試験、出席状況を踏まえて60点以上を合格とする。
教科書	義肢装具のチェックポイント 第7版 医学書院
参考書	なし

理学療法学科	3学年	後期	単位数	1	時間数	30
科目名	運動器障害理学療法Ⅲ		授業形態	講義/演習	使用教室	PT3/治療室2
講師	丸山 寿美恵	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	運動器疾患(半月板損傷、靭帯損傷、足関節捻挫、足部疾患)に対する病態を理解し、系統的な評価ならびに治療手技を選択することができる。 熱傷・小児疾患・骨端症については、国家試験レベルの知識を身に付ける。
------	---

回	主題	内容
第1回	膝関節疾患	半月板損傷:原因、病態、症状 (半月板の構造と運動の特徴を踏まえて)
第2回	膝関節疾患	半月板損傷:術式とプロトコルの違い、整形外科テスト
第3回	膝関節疾患	半月板損傷:理学療法評価・治療プログラム(*)
第4回	膝関節疾患	前十字靭帯損傷:原因、病態、症状、整形外科テスト
第5回	膝関節疾患	前十字靭帯損傷:術式、術後プロトコル、理学療法評価・治療プログラム(*)
第6回	膝関節疾患	後十字靭帯・内側側副靭帯損傷:原因、病態、症状
第7回	膝関節疾患	後十字靭帯・内側側副靭帯損傷:評価・プログラムの違い
第8回	膝関節疾患	実技(整形外科テスト、靭帯損傷の理学療法)
第9回	足の疾患	足関節の機能解剖/足関節靭帯損傷
第10回	足の疾患	足関節靭帯損傷:評価・治療プログラム(実技も含む)
第11回	足の疾患	アキレス腱炎、アキレス腱断裂:病態、症状、評価、治療プログラム
第12回	足の疾患	扁平足、外反母趾:病態、症状、評価、治療プログラム
第13回	熱傷	熱傷と理学療法:受傷範囲の評価、熱傷の分類 熱傷治療の経過と理学療法の関係、良肢位
第14回	熱傷	熱傷と理学療法:基本的理学療法(国家試験問題)
第15回	小児疾患、骨端症	各小児疾患、骨端症の概要(国家試験問題)

評価方法	予習課題・小テスト2割、定期試験8割とし、総合60点以上を合格とする。
教科書	・ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション (羊土社) ・病気が見える 運動器・整形外科学(MEDIC MEDIA) ・標準整形外科学 第14版 (医学書院)
参考書	・筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版(医歯薬出版株式会社) ・理学療法ガイドライン など

作成日：令和 7年 4月 1日

理学療法学科	3学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	運動器障害理学療法Ⅳ		授業形態	演習/講義	使用教室	治療室/PT3
講師	井崎 義己		一般			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動器疾患における病態の基礎を理解する。 ・主に上肢・下肢の運動器疾患について、疾患の特徴を理解する。 ・疾患に対する適切な評価を選択し、リスクを把握した上で、適切な治療を選択できる。
------	---

回	主題	内容
第1回	高齢者の特徴	フレイル/サルコペニア
第2回	高齢者の特徴	骨粗鬆症の概要
第3回	外傷/骨折(総論)	外傷(総論)/骨折の分類、症状、合併症、骨折治癒の異常過程
第4回	骨折(総論)	小児の骨折、治療法、リハビリテーション
第5回	骨折各論	上肢の骨折(上腕骨近位端骨折)
第6回	骨折各論	上肢の骨折(橈骨遠位端骨折)
第7回	骨折各論	上肢の骨折(理学療法)、その他の骨折
第8回	骨折各論	下肢の骨折(大腿骨近位端部骨折)
第9回	骨折各論	下肢の骨折(理学療法)
第10回	骨折各論	下肢の骨折(その他の骨折)
第11回	骨折各論	脊柱・骨盤の骨折(脊椎圧迫骨折)
第12回	脱臼	上肢の脱臼
第13回	脱臼	下肢の脱臼
第14回	胸椎・胸郭疾患	胸椎・腰椎の機能解剖/胸椎疾患の概要
第15回	胸椎・胸郭疾患	胸椎疾患の概要
第16回	腰椎・骨盤疾患	腰椎疾患の概要
第17回	腰椎・骨盤疾患	腰部疾患に対する評価と理学療法
第18回	腰椎・骨盤疾患	腰部疾患に対する評価と理学療法
第19回	切断	切断部位と断端管理
第20回	切断	上肢切断・下肢切断の概要
第21回	切断	義足による異常歩行
第22回	切断	義足による異常歩行
第23回	切断	義足による異常歩行

評価方法	2/3出席を必要とする。 小テスト、授業態度、定期試験の結果から総合的に60点以上を合格と判断する。
教科書	ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション 羊土社
参考書	筋骨格系のキネシオロジー 医歯薬出版 プロメテウス解剖学アトラス 医学書院 国試の達人 臨床医学編/理学療法編

理学療法学科	3学年	後期	単位数	1	時間数	30
科目名	神経障害理学療法Ⅲ		授業形態	講義	使用教室	PT3
講師	橋山浩介		実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を講義に生かしている		

教育目標	①脳血管障害の理学療法の考え方を理解する。 ②脳血管障害の回復期理学療法について学ぶ。 ③脳血管障害の身体機能、生活機能、合併症とその対策について学ぶ。
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション/脳血管障害の理学療法の考え方
第2回	回復期の脳卒中理学療法	回復期における理学療法士の役割・流れ
第3回		運動障害に対するアプローチ
第4回		装具療法
第5回	歩行障害	歩行に関する神経機構
第6回		脳卒中片麻痺の歩行障害
第7回		歩行評価
第8回		理学療法の実際
第9回	脳卒中後疼痛	脳卒中後疼痛の定義と分類
第10回		脳卒中後疼痛の評価・アプローチ
第11回	生活期の脳卒中理学療法	生活期における理学療法
第12回		生活期における脳卒中後遺症者の諸問題
第13回		生活期における理学療法士の役割
第14回	摂食嚥下障害	摂食嚥下障害の評価・理学療法
第15回	まとめ	国家試験対策/振り返り

評価方法	定期試験において、60点以上を合格とする
教科書	・標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版、医学書院 ・病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA
参考書	・神経筋障害理学療法学テキスト 改定第3版、南江堂 ・絵でみる脳と神経～しくみと障害のメカニズム～ 第4版、医学書院 ・【追補2019対応】脳卒中ガイドライン2015 ・理学療法テキスト 神経障害理学療法Ⅱ、中山書店

理学療法学科	3学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	神経障害理学療法学Ⅳ		授業形態	講義	使用教室	PT3
講師	石堂 優太	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験を活かし、疾患や理学療法をイメージできるよう理解を促していく			

教育目標	① 疾患に関する機能解剖と病態生理を理解する ② 疾患に対する基本的な理学療法の流れ、評価、治療プログラムの進め方について学ぶ ③ 国家試験出題範囲内容の理解を深める
------	---

回	主題	内容
第1回	筋萎縮性側索硬化症	神経変性疾患とは、筋萎縮性側索硬化症とは
第2回	筋萎縮性側索硬化症	筋萎縮性側索硬化症とは
第3回	筋萎縮性側索硬化症	筋萎縮性側索硬化症とは
第4回	筋萎縮性側索硬化症	筋萎縮性側索硬化症の評価・理学療法プログラム
第5回	筋萎縮性側索硬化症	筋萎縮性側索硬化症の評価・理学療法プログラム
第6回	パーキンソン病	パーキンソン病について
第7回	パーキンソン病	パーキンソン病について
第8回	パーキンソン病	パーキンソン病以外の大脳基底核変性疾患
第9回	パーキンソン病	パーキンソン病の評価・治療プログラム
第10回	パーキンソン病	パーキンソン病の評価・治療プログラム
第11回	脊髄小脳変性症	脳幹・小脳の構造と機能
第12回	脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症とは
第13回	脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症とは
第14回	脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症の評価・治療プログラム
第15回	脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症の評価・治療プログラム
第16回	多発性硬化症	脱髄疾患とは、多発性硬化症とは
第17回	多発性硬化症	脱髄疾患とは、多発性硬化症とは
第18回	多発性硬化症	多発性硬化症の評価・治療プログラム
第19回	Guillain-Barre症候群	末梢神経障害とは、Guillain-Barre症候群とは、Charcot-Marie-Tooth病とは
第20回	Guillain-Barre症候群	末梢神経障害とは、Guillain-Barre症候群とは、Charcot-Marie-Tooth病とは
第21回	Guillain-Barre症候群	末梢神経障害の評価・治療プログラム
第22回	まとめ	第1回～11回のまとめ
第23回	まとめ	第12回～23回のまとめ

評価方法	定期試験8割、小テスト2割で評価し、定期試験については、6割以上を合格とする。2/3出席を必要とする。
教科書	病気がみえる 脳・神経 第2版 神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ 改定第2版 ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション
参考書	絵で見る脳と神経～しくみと障害のメカニズム～ 第3版 神経筋理学療法学テキスト 改訂第3版、南江堂

理学療法学科	3学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	内部障害理学療法Ⅱ		授業形態	講義/演習	使用教室	PT3/治療室1
講師	徳田一貫・一ノ瀬晴也・伊藤雄矢		実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、内部疾患の理学療法に携わった経験を授業に反映させている。		

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・内部障害疾患の病態、症状を理解する。 ・内部障害疾患に対する評価、理学療法について習得する。
------	--

回	主題	内容
第1回	代謝性疾患(徳田)	メタボリックシンドローム
第2回	代謝性疾患(徳田)	糖尿病
第3回	代謝性疾患(徳田)	糖尿病と合併症
第4回	代謝性疾患(徳田)	糖尿病と合併症
第5回	代謝性疾患(徳田)	運動療法
第6回	血管疾患について(徳田)	動脈硬化症、静脈疾患について
第7回	心疾患各論(一ノ瀬)	心電図
第8回	心疾患各論(一ノ瀬)	不整脈の理解と心リハ
第9回	心疾患各論(一ノ瀬)	臨床における運動生理学の重要性について
第10回	心疾患各論(一ノ瀬)	臨床における運動負荷試験(CPX)について
第11回	心疾患各論(一ノ瀬)	虚血性心疾患の理解と心リハ
第12回	心疾患各論(一ノ瀬)	虚血性心疾患の理解と心リハ
第13回	心疾患各論(一ノ瀬)	虚血性心疾患の理解と心リハ
第14回	心疾患各論(一ノ瀬)	心不全の理解と心リハ
第15回	心疾患各論(一ノ瀬)	心不全の理解と心リハ
第16回	心疾患各論(一ノ瀬)	心不全の理解と心リハ
第17回	腎疾患(徳田)	透析患者の理学療法について
第18回	腎疾患(徳田)	腎疾患と障害について
第19回	腎疾患(徳田)	腎疾患の理学療法について
第20回	がんのリハビリテーション(伊藤)	がんの病態生理
第21回	がんのリハビリテーション(伊藤)	がんの理学療法
第22回	がんのリハビリテーション(伊藤)	がんの理学療法
第23回	がんのリハビリテーション(伊藤)	がんの理学療法

評価方法	小テスト(20%)定期試験(80%)の結果、60点以上を合格とする。
教科書	解良武士・椿淳裕編 Crocslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学
参考書	解剖学、生理学、内科学、病理学の各教科書 (動画教材) VISUAL LEARN

作成日：令和7年4月1日

理学療法学科	3学年	後期	単位数	1	時間数	30
科目名	小児理学療法学	授業の形態	講義		使用教室	PT3
講師	加賀良 健太		一般			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小児期リハビリテーション・理学療法の特徴を理解する。 ・小児期の代表疾患と理学療法の基本的な考え方について理解する。
------	--

回	主題	内容
第1回	反射・反応	原始反射・立ち直り反応・平衡反応
第2回	反射・反応	原始反射・立ち直り反応・平衡反応の国家試験問題
第3回	運動発達	12ヵ月までの運動発達とその特徴
第4回	姿勢反射と運動発達	(異常)姿勢反射と運動発達・運動発達検査法
第5回	脳性麻痺概論	脳性麻痺の定義、タイプ、原因
第6回	脳性麻痺各論	痙直型四肢麻痺
第7回	脳性麻痺各論	痙直型両麻痺
第8回	脳性麻痺各論	痙直型片麻痺
第9回	脳性麻痺各論	アトーゼ型四肢麻痺
第10回	脳性麻痺の評価、各論	発達検査・日常生活および能力障害の評価、ケーススタディ
第11回	重症心身障害	重症心身障害児(者)の病態と臨床像、評価、治療
第12回	子どもの遺伝性疾患	進行性筋ジストロフィーの病態と臨床像、評価、治療
第13回	二分脊椎症	二分脊椎症の病態と臨床像、評価、治療
第14回	小児整形疾患	小児整形疾患の概要
第15回	知的障害・発達障害	ダウン症・ADHD・自閉症スペクトラム・LD

評価方法	出席・授業態度・小テスト・定期試験の結果、60点以上を合格とする。
教科書	シンプル理学療法シリーズ 小児理学療法学テキスト 南江堂
参考書	

理学療法学科	3学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	臨床技能演習Ⅲ		授業形態	演習/講義	使用教室	治療室1/PT3
講師	川口 貴史	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を広義に反映させる。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1.2年次に学んだ評価技術を振り返り臨床で応用できる知識・技術を身につける。 ・1.2年次に学んだ治療技術を振り返り臨床で応用できる知識・技術を身につける。 ・各疾患で学んだ知識を振り返り臨床で応用できる評価・治療技術を身につける。
------	---

回	主題	内容
第1回	関節可動域測定 筋力測定 形態測定	基礎～応用的演習
第2回		case 応用演習
第3回		
第4回	起き上がり～移乗	基礎～応用的演習
第5回		
第6回	感覚検査	触覚検査
第7回	反射検査	腱反射(上腕二頭筋、上腕三頭筋、膝蓋腱、アキレス腱)
第8回		病的反射(バビンスキー、ホフマン、トレムナー)
第9回	関節可動域運動	肩関節屈曲 その他部位
第10回	筋力増強運動	股関節外転 その他部位
第11回	肩関節の構造と病態	腱板の機能解剖、肩腱板断裂の病態、肩関節周囲炎、骨折など
第12回	整形外科疾患別検査①	OSCE: drop arm test
第13回	振り子運動	OSCE: 振り子運動
第14回	腰椎の構造と病態	腰椎の機能解剖、腰椎椎間板ヘルニアの病態について
第15回	整形外科疾患別検査②	OSCE: 下肢伸展挙上テスト
第16回	部分荷重練習	部分荷重練習とは
第17回	部分荷重練習②	OSCE: 部分荷重練習
第18回	呼吸練習①	呼吸リハビリテーションとは、安楽姿勢
第19回	呼吸練習②	呼吸法、リスク管理、手順のポイント
第20回	呼吸練習③	OSCE: 呼吸練習
第21回	排痰手技①	気道分泌物の貯留部位評価、排痰手技、スクイーピング
第22回	排痰手技②	咳嗽、咳嗽介助手技、リスク管理
第23回	排痰手技③	OSCE: 排痰手技

評価方法	実技試験6割、定期試験4割にて総合的に判定し、6割以上を合格とする。実技試験が未受験の場合は不合格とし、実技試験が6割未満の場合は実技試験の再試験を実施する。
教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版、金原出版株式会社 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 金原出版株式会社
参考書	

作成日：令和7年4月1日

理学療法学科	3学年	後期	単位数	4	時間数	180
科目名	短期臨床実習		授業形態	実習	使用教室	—
講師	川口 貴史	実務経験有	理学療法士として医療施設に勤務経験があり、その経験を臨床実習に反映している。			

教育目標	<p>本学院の教育方針である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療法人立の強みを生かした「高い専門性」 ・医療人にふさわしい人格形成を目指した「広い社会性」 ・社会から求められる医療人の輩出の3点をもとに、臨床教育者(以下CE)による、ある程度の助言・指導のもと理学療法・作業療法を模倣や実施できるようになるために、診療参加型臨床実習(clinical clerkship: 以下CCS)を通し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習することとする。 <p><短期臨床実習の教育目標></p> <p>CEの指導・監視のもと、理学療法士・作業療法士としての基本的な資質を高め、実施を推奨する臨床技能およびCEの臨床的思考過程において「模倣レベル」のスキルを修得する。</p>
------	---

内容	
実習施設:	九州県内を中心とした病院、診療所、介護老人保健施設
実習期間:	4週間
実習形態:	CEの監督の下、診療参加型臨床実習(CCS)を通してCEと一緒に考え、一緒に行動し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習する。 教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。
実習の進め方:	学生には臨床実習要綱を配布し、事前にオリエンテーション実施。 実習施設には臨床教育者会議にて要綱の説明、実習に関する議題をもとに会議を実施。
	<p>実習においては『助手として診療チームに参加し、実体験を通して、セラピストとして修得すべきスキルを育成する』というCCSの概念を通して、学生が多くの臨床的経験を積み、行動変容を引き出す機会となるよう実施する。</p> <p>臨床技能を修得するために「見学—模倣—実施」という診療参加過程での実践指導を基盤にし、対象者における必要な情報・CEの考え方や方針を知り、共有するところから始め、その上で実習チェックリストにある臨床技能項目を理解し、実施可能な項目について計画的に実施していく。</p> <p>実習開始前に臨床で必要とされる基本的な態度、技能が身についているかを判定するためにOSCE(客観的臨床能力試験)を実施する。</p> <p>実習終了後はセラピストとしての実践的な知識の使い方・思考過程など、対象者を通して得られた「認知スキル」を整理し、報告するために実習報告会を実施する。</p>
実習課題:	実習中は「デイリーノート」、「ケースノート」を課題とし、実習中に得た臨床的思考や知識など自己能力を確認するための資料集となる「ポートフォリオ」を作成する。 実習終了後は実習報告会、そのための準備としてレジュメ・スライドの作成を行う。

評価方法	実習内容 7割(出席・社会スキル・実習報告会)、OSCE 3割を基に、総合的に判定する。 総合判定結果において6割以上を合格とする。 (履修すべき実習の日数の5分の4に満たない場合は、当該実習の単位認定を行わない。)
教科書	規定なし
参考書	3年次までに使用した教科書

理学療法学科	4学年	通期	単位数	8	時間数	360
科目名	長期臨床実習 I		授業形態	実習	使用教室	なし
講師	橋山浩介	実務経験有	理学療法士として医療施設に勤務経験があり、その経験を臨床実習に反映している。			

教育目標	<p>本学院の教育方針である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療法人立の強みを生かした「高い専門性」 ・医療人にふさわしい人格形成を目指した「広い社会性」 ・社会から求められる医療人の輩出の3点をもとに、臨床教育者(以下CE)による、ある程度の助言・指導のもと理学療法・作業療法を模倣や実施できるようになるために、診療参加型臨床実習(clinical clerkship:以下CCS)を通し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習することとする。 <p><長期臨床実習 I の教育目標></p> <p>CEの指導・監視のもと、理学療法士・作業療法士としての倫理観や基本的態度を身に付け、実施を推奨する臨床技能およびCEの臨床的思考過程において「模倣レベル」から「実施レベル」のスキルを修得する。</p>
------	---

内容	<p>実習施設：九州県内を中心とした病院、診療所、介護老人保健施設</p> <p>実習期間：8週間</p> <p>実習形態：CEの監督の下、診療参加型臨床実習(CCS)を通してCEと一緒に考え、一緒に行動し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習する。 教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。 臨床実習を通して訪問または通所リハビリテーションに関する実習を40時間以上行う。</p> <p>実習の進め方：学生には臨床実習要綱を配布し、事前にオリエンテーション実施。 実習施設には臨床教育者会議にて要綱の説明、実習に関する議題をもとに会議を実施。</p> <p>実習においては『助手として診療チームに参加し、実体験を通して、セラピストとして修得すべきスキルを育成する』というCCSの概念を通して、学生が多くの臨床的経験を積み、行動変容を引き出す機会となるよう実施する。 臨床技能を修得するために「見学－模倣－実施」という診療参加過程での実践指導を基盤にし、対象者における必要な情報・CEの考え方や方針を知り、共有するところから始め、その上で実習チェックリストにある臨床技能項目を理解し、実施可能な項目について計画的に実施していく。 実習開始前に臨床で必要とされる基本的な態度、技能が身についているかを判定するためにOSCE(客観的臨床能力試験)を実施する。 実習終了後はセラピストとしての実践的な知識の使い方・思考過程など、対象者を通して得られた「認知スキル」を整理し、報告するために実習報告会を実施する。</p> <p>実習課題：実習中は「デイリーノート」、「ケースノート」を課題とし、実習中に得た臨床的思考や知識など自己能力を確認するための資料集となる「ポートフォリオ」を作成する。 実習終了後は実習報告会、そのための準備としてレジュメ・スライドの作成を行う。</p>
----	--

評価方法	<p>実習内容(出席・社会スキル・実習報告会)、OSCEを基に、総合的に判定する。 総合判定結果において6割以上を合格とする。 (履修すべき実習の日数の5分の4に満たない場合は、当該実習の単位認定を行わない。)</p>
教科書	規定なし
参考書	3年次までに使用した教科書 国試の達人

理学療法学科	4学年	通期	単位数	8	時間数	360
科目名	長期臨床実習Ⅱ		授業形態	実習	使用教室	なし
講師	橋山浩介	実務経験有	理学療法士として医療施設に勤務経験があり、その経験を臨床実習に反映している。			

教育目標	<p>本学院の教育方針である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療法人立の強みを生かした「高い専門性」 ・医療人にふさわしい人格形成を目指した「広い社会性」 ・社会から求められる医療人の輩出の3点をもとに、臨床教育者(以下CE)による、ある程度の助言・指導のもと理学療法・作業療法を模倣や実施できるようになるために、診療参加型臨床実習(clinical clerkship:以下CCS)を通し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習することとする。 <p><長期臨床実習Ⅰの教育目標></p> <p>CEの指導・監視のもと、理学療法士・作業療法士としての倫理観や基本的態度を身に付け、実施を推奨する臨床技能およびCEの臨床的思考過程において「模倣レベル」から「実施レベル」のスキルを修得する。</p>
------	---

内容	<p>実習施設：九州県内を中心とした病院、診療所、介護老人保健施設</p> <p>実習期間：8週間</p> <p>実習形態：CEの監督の下、診療参加型臨床実習(CCS)を通してCEと一緒に考え、一緒に行動し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習する。 教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。 臨床実習を通して訪問または通所リハビリテーションに関する実習を40時間以上行う。</p> <p>実習の進め方：学生には臨床実習要綱を配布し、事前にオリエンテーション実施。 実習施設には臨床教育者会議にて要綱の説明、実習に関する議題をもとに会議を実施。</p> <p>実習においては『助手として診療チームに参加し、実体験を通して、セラピストとして修得すべきスキルを育成する』というCCSの概念を通して、学生が多くの臨床的経験を積み、行動変容を引き出す機会となるよう実施する。 臨床技能を修得するために「見学－模倣－実施」という診療参加過程での実践指導を基盤にし、対象者における必要な情報・CEの考え方や方針を知り、共有するところから始め、その上で実習チェックリストにある臨床技能項目を理解し、実施可能な項目について計画的に実施していく。 実習開始前に臨床で必要とされる基本的な態度、技能が身についているかを判定するためにOSCE(客観的臨床能力試験)を実施する。 実習終了後はセラピストとしての実践的な知識の使い方・思考過程など、対象者を通して得られた「認知スキル」を整理し、報告するために実習報告会を実施する。</p> <p>実習課題：実習中は「デイリーノート」、「ケースノート」を課題とし、実習中に得た臨床的思考や知識など自己能力を確認するための資料集となる「ポートフォリオ」を作成する。 実習終了後は実習報告会、そのための準備としてレジュメ・スライドの作成を行う。</p>
----	--

評価方法	<p>実習内容(出席・社会スキル・実習報告会)、OSCEを基に、総合的に判定する。 総合判定結果において6割以上を合格とする。 (履修すべき実習の日数の5分の4に満たない場合は、当該実習の単位認定を行わない。)</p>
教科書	規定なし
参考書	3年次までに使用した教科書 国試の達人

理学療法学科	4学年	通期	単位数	8	時間数	120
科目名	理学療法セミナー		授業形態	講義	使用教室	PT4/基礎医学実習室
講師	橋山浩介	実務経験有	理学療法士として医療施設に勤務経験があり、その経験を臨床実習に反映している。			
教育目標	4年間の知識の再確認と国家試験に必要な知識の習得。					
回	主題	内容				
第1回	第3回分野別学習(運動器系)	グループ学習①				
第2回	第3回分野別学習(運動器系)	グループ学習②				
第3回	第3回分野別模試	解剖・運動・生理学(運動器系)				
第4回	第3回分野別学習(運動器系)	試験後復習期間				
第5回	第3回分野別学習(運動器系)	試験後復習期間				
第6回	3科目試験	第1.2.3回分野別試験の総括試験				
第7回	3科目試験	第1.2.3回分野別試験の総括試験				
第8回	第1回分野別学習(病理・内科)	グループ学習①				
第9回	第1回分野別学習(病理・内科)	グループ学習②				
第10回	第1回分野別模	(臨床医学)病理・内科学				
第11回	第1回分野別学習(病理・内科)	試験後復習期間				
第12回	第1回分野別学習(病理・内科)	試験後復習期間				
第13回	第2回分野別学習(整形外科)	グループ学習①				
第14回	第2回分野別学習(整形外科)	グループ学習②				
第15回	第2回分野別模試	(臨床医学)整形外科学				
第16回	第2回分野別学習(整形外科)	試験後復習期間				
第17回	第2回分野別学習(整形外科)	試験後復習期間				
第18回	第3回分野別学習(神経内科・発達)	グループ学習①				
第19回	第3回分野別学習(神経内科・発達)	グループ学習②				
第20回	第3回分野別模試	(臨床医学)神経内科・人間発達学				
第21回	第3回分野別学習(神経内科・発達)	試験後復習期間				
第22回	第3回分野別学習(神経内科・発達)	試験後復習期間				
第23回	第4回分野別学習(心理・精神)	グループ学習①				
第24回	第4回分野別学習(心理・精神)	グループ学習②				
第25回	第4回分野別模試	(臨床医学)臨床心理・精神医学				
第26回	第4回分野別学習(心理・精神)	試験後復習期間				
第27回	第4回分野別学習(心理・精神)	試験後復習期間				
第23回	第5回分野別学習(管理学)	グループ学習①				
第24回	第5回分野別学習(管理学)	グループ学習②				
第25回	第5回分野別模試	理学療法管理学				
第26回	第5回分野別学習(管理学)	試験後復習期間				
第27回	第5回分野別学習(管理学)	試験後復習期間				

第28回	第1回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第29回	第1回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第30回	第1回分野別学習(専門①)	グループ学習①
第31回	第1回分野別学習(専門①)	グループ学習②
第32回	第1回分野別模試	理学療法 専門①
第33回	第2回分野別学習(専門②)	グループ学習①
第34回	第2回分野別学習(専門②)	グループ学習②
第35回	第2回分野別模試	理学療法 専門②
第36回	第3回分野別学習(専門③)	グループ学習①
第37回	第3回分野別学習(専門③)	グループ学習②
第38回	第3回分野別模試	理学療法 専門③
第39回	第4回分野別学習(専門④)	グループ学習①
第40回	第4回分野別学習(専門④)	グループ学習②
第41回	第4回分野別模試	理学療法 専門④
第42回	第5回分野別学習(専門⑤)	グループ学習①
第43回	第5回分野別学習(専門⑤)	グループ学習②
第44回	第5回分野別模試	理学療法 専門⑤
第45回	第6回分野別学習(専門⑥)	グループ学習①
第46回	第6回分野別学習(専門⑥)	グループ学習②
第47回	第6回分野別模試	理学療法 専門⑥
第48回	第6回分野別学習(専門⑥)	試験後復習期間
第49回	第6回分野別学習(専門⑥)	試験後復習期間
第50回	集中学習期間	グループ学習・第2回医歯薬模試
第51回	第2回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第52回	第2回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第53回	集中学習期間	グループ学習・三輪模試
第54回	第3回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第55回	第3回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第56回	集中学習期間	グループ学習・第3回医歯薬模試
第57回	第4回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第58回	第4回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第59回	集中学習期間	グループ学習・国家試験直前模試①
第60回	集中学習期間	グループ学習・国家試験直前模試②・国家試験前オリエンテーション
評価方法	卒業試験(全4回)の成績にて60点以上を単位認定とする。 1次判定: 第1.2回卒業試験成績 2次判定: 第3.4回卒業試験成績	
教科書	・国試の達人 運動解剖生理学編・臨床医学編・理学療法編、IPEC ・国家試験必修ポイント 基礎医学・臨床医学・基礎PT学・障害別PT学、医歯薬出版株式会社	
参考書	・1.2.3年次教科書 ・各授業授業資料 ・動画教材	